

(仮称) 国際青少年センター

(仮称) 芸術創造ファクトリー

基本計画



策定経過 参考資料  
Reference Data

平成28年3月

新潟市  
新潟市教育委員会



# 00 策定経過 目次

## 策定経過

F01	委員一覧表	P. F01
F02	会議日程（日時・日程）	P. F02
M01	策定検討委員会議事録（第2回）分科会 1	P. M01-05
M02	策定検討委員会議事録（第2回）分科会 1	P. M06-13
M03	策定検討委員会議事録（第2回）分科会 2	P. M14-20
M04	策定検討委員会議事録（第3回）	P. M21-28
M05	策定検討委員会議事録（第4回）	P. M29-43
M06	策定検討委員会議事録（第5回）	P. M44-52
M07	策定検討委員会議事録（第6回）	P. M53-61
F03	開催要綱	P. F03
P01	パブリックコメント 結果	P. P01-02
P02	パブリックコメント 意見・回答	P. P03-05

# F01

## 委員一覧表

区分	氏名	所属/役職	備考
(仮称) 国際青少年 センター	中村 恵子	新潟青陵大学 / 教授	学識経験者
	福島 實	新潟市子ども会連絡協議会 / 会長	青少年健全育成
	近藤 淳一	新潟国際友好会館 / 館長	国際交流
	齊藤 裕子	新潟市教育委員会学校支援課 / 副参事	教員 (指導主事)
	長浜 裕子	新潟市教育委員会 / 教育次長	行政
(仮称) 芸術創造 ファクトリー	丹治 嘉彦	新潟大学教育学部芸術環境講座 / 教授	学識経験者
	逸見 覚	(株) けんと放送 / 取締役 放送局長	放送業
	池主 透子	TC-Wave / 代表	マーケティング リサーチ業
	菊野 麻子	フリーアナウンサー	放送業 マスコミ関係
	長井 亮一	新潟市文化スポーツ部 / 部長	行政

# F02 会議日程（日時・内容）

	日時	内容
第1回	平成27年8月4日（火） 午前10時30分～正午	・基本構想・基本計画策定支援業務委託事業者による提案及び各委員意見徴収
第2回	平成27年8月31日(月) (仮称) 国際青少年センター 個別委員会 午後1時15分～午後2時45分 (仮称) 芸術創造ファクトリー 個別委員会 午後3時30分～午後5時	・委員意見整理及び施設内容の確定
第3回	平成27年10月28日（水） 午前9時30分～正午	・施設の整備基本方針（案）について ・施設レイアウト（案）について ・今後のスケジュールについて ・基本構想の骨子について
第4回	平成27年11月27日（金） 午前9時30分～正午	・基本構想（素案）について
第5回	平成28年2月16日（火） 午前10時00分～正午	・基本構想（案）に対する パブリックコメント実施結果について ・基本計画（案）について
第6回	平成28年3月28日（火） 午前2時～午前4時	・基本計画（案）について

# M01

## 策定検討委員会議事録（第1回）

日時 : 平成27年8月4日（火） 9:00～12:00  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 1号棟 2階 教育会議室1

出席者 委員 : 中村 恵子 (新潟青陵大学 教授)  
福島 實 (新潟市子ども会連絡協議会 会長)  
近藤 淳一 (新潟国際友好会館 館長)  
長浜 裕子 (新潟市教育委員会 教育次長)  
丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座 教授)  
逸見 覚 ((株)けんとう放送 取締役 放送局長)  
長井 亮一 (新潟市文化スポーツ部 部長)

欠席者 委員 : 齊藤 裕子 (新潟市教育委員会学校支援課 副参事)  
池主 透子 (TC-Wave 代表)  
菊野 麻子 (フリーアナウンサー)

出席者 事務局 : 佐々木 克己 (教育委員会地域教育推進課 課長)  
枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)  
増田 徹 (教育委員会地域教育推進課 副主査)  
中野 力 (文化スポーツ部文化政策課 課長)  
黒川 正憲 (文化スポーツ部文化政策課 主査)  
水野 利数 (地域魅力創造部 政策監)  
相馬 浩幸 (地域魅力創造部 係長)  
阿部 康道 (大畑少年センター 所長)  
半藤 千枝子 (大畑少年センター 事業担当)

出席者 策定支援 : 町田 誠 (本間総合建築 取締役)  
全体進行 : 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

傍聴者 : 4名

## ◆ 議事内容

1. 現地視察 9:00～  
: 旧二葉中学校

2. 事務局挨拶 10:25～  
: 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・大畑少年センターは年間5万人に利用されている。施設は老朽化が進み、耐震工事も必要であるが、都市計画道路と重なっているため、現地での建替も難しい。そのような背景から、当基本計画を策定することになった。この委員会において委員の方々から忌憚のない意見を頂きたい。

3. 委員紹介

4. 委員長・副委員長選出

委員長 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）  
副委員長 : 福島 實（新潟市子ども会連絡協議会 会長）

5. 議事 ※進行は委員長

### (1) 事業説明

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会について 資料1

: 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・概要、背景、整備方針、施設改修条件、全体スケジュール、策定委員、アドバイザーについて資料に沿って説明。

《資料》旧二葉中学校跡地周辺活用計画図（案）地域魅力創造部

: 水野 利数（地域魅力創造部 政策監）  
相馬 浩幸（地域魅力創造部 係長）

- ・風致地区に囲まれ、海岸道路に面しているなどの立地特性を活かし、国際的な交流拠点とし、全市的視点から跡地の活用を図る構想に位置づけている。
- ・上記全体方針のもとで校舎の活用検討がある。

- ・校舎については、大畑少年センターの移転に加え芸術創造ファクトリーの活用を主に検討していく。
- ・その他校舎以外のグラウンドについては、国際交流の為の広場と民間の活力を利用してカフェ・レストラン等も検討。

### 〈質疑〉

- ・自然体験活動を重視するのであれば、グラウンドに建物を建てることは、若干不都合があるのではないか。（福島委員）
  - 跡地周辺活用計画案は未決定の内容。二葉中校舎中心で考えて頂いて良い。（枝並 地域教育推進課長補佐）  
グラウンドに関しては市有地を民間に貸出し民間が運営するイメージ。（相馬 地域魅力創造部係長）
- ・地域魅力創造部の行政としての位置づけについてお聞きしたい。（福島委員）
  - 行政としては大きな権限や予算を持つ部署ではないが、二葉中跡地については多くの部署がかかわるので、総合調整的役割を担っている。（水野 地域魅力創造部政策監）

## (2) 施設内容提案


《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会（第1回）資料2  
： 町田 誠（本間総合建築）

- ・全体説明（基本方針と3テーマ 複合、交流、活性）
- ・青少年センター機能と創造ファクトリー機能の複合化
- ・整備方針に基づく機能提案（提案居室の説明）
- ・事例集に沿って3施設を説明

## (3) 施設内容委員提案

- ・提案内容は貸借を想定されているのか。（長井委員）
  - 具体的な想定を行ってはいない。成功の鍵はハードではなく、ソフト面であり、力のあるディレクターによる運営と思う。（本間総合建築）



- 
- ・ラウンジ利用の想定で、地域住民がベビーカーを引いてこちらへ来る市民は少ないのではないかと。また駐車場の台数想定があれば教えて頂きたい。

(逸見委員)

- 具体的な台数の想定はない。施設利用者数の想定を考える必要がある。(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・この委員会で運営形態を検討すべき。

また新潟で成功する為に3年以降まで考慮した運営形態の検討が望まれる。(丹治委員)

- 運営形態等は未確定の為、本日は提案内容の意見を頂きたい。

(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・創造ファクトリーと青少年センターと複合化した時にどのような方向性になるのかの議論も必要ではないか。また両施設をまとめられるディレクターを探すのは難しいのではないかと。(中村委員)

- ・青少年機能という立場から、広く他の施設を見ていると利用年齢層の幅が少なく、どちらかという閉鎖的。特に、大畑青少年センターにおけるロシアからの交流では、青年が多く、大畑の利用者との年齢差が大きい。青少年とアートが融合できれば、活動の幅が広がってよいと思う。(福島委員)

- ・海外ではタトゥーもアートであり、そのような方が青年と一緒に活動するのはいかがなものか。(逸見委員)

- ・排除ではなく、どこまで融合できかと利用者幅の制限が難しい。

(福島委員)

- ・芸術は社会に対しては異質なもの。それを踏まえた上で、青少年との交流することで新たな発見が生まれるのではないかと。(丹治委員)

- ・小中高くらいと大人との交流を当初考えていた。(長井委員)

- ・二葉中の耐震性能はどうか。資料2 P1の1階平面図(水)の壁を抜いても問題ないのか。(福島委員)

- 特に耐震性能に問題は無いと聞いている。(本間総合建築)

- ・大畑少年センターの利用料金をご教示頂きたい。（逸見委員）  
→ 大畑少年センターは料金を取っていない。シーツ代等実費のみ。  
（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・青少年センターと創造ファクトリーの経営形態が各々で変わるのであれば、考慮した検討が必要。（長浜委員）
- ・青少年センターと創造ファクトリーが重なりあって交流を深めることができるのであれば、そのようなスペースがあるのが良いと思う。  
（近藤委員）
- ・総論としては、世代を超えた交流、複合化が良いという大きな方向性。今後、各論で詳細を検討していく。（中村委員）
- ・運営形態はどうするのか。指定管理者による類似施設の運営では、スタッフが足りないというのが実情。（丹治委員）
- ・5年、10年後までも続いていく施設にしなければならない。（中村委員）

#### (4) その他

- ・追加意見等は 8月14日までに地域教育推進課に提出
- ・大畑少年センターの活動内容と稼働率をご教示頂きたい。（長井委員）  
→ 宿泊部分の稼働率 17%/年、1日の平均利用者数 175人。  
（長浜委員）

## 6. 連絡

- (1) 第2回委員会の日程について： 日程調整表を今週中に地域教育推進課に提出

日時 : 未定

場所 : 未定

以上

# M02

## 策定検討委員会議事録（第2回）分科会 1

- 日時 : 平成27年8月31日（月） 13:15～14:45  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 白2-402会議室
- 出席者 委員 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）  
福島 實（新潟市子ども会連絡協議会 会長）  
近藤 淳一（新潟国際友好会館 館長）  
長浜 裕子（新潟市教育委員会 教育次長）  
齊藤 裕子（新潟市教育委員会学校支援課 副参事）
- 出席者 事務局 : 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）  
枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）  
増田 徹（教育委員会地域教育推進課 副主査）
- 出席者 策定支援 : 町田 誠（本間総合建築 取締役）  
全体進行 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）
- 傍聴者 : 1名

### ◆ 議事内容

#### 1. 地域教育推進課長挨拶

: 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・第1回の委員会では新潟市初の複合施設について忌憚ない意見を頂いた。今回の委員会では、各委員の意見の集約と施設内容の決定を行いたい。魅力ある施設をつくるには、何を作るかではなく、何を作りたいか、が重要。

#### 2. 議事

##### (1) 第1回委員会の意見集約、添付資料の説明


《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会について(第1回)

委員意見集約 資料1

: 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

第1回委員会意見集約の概要を説明

- ・国際青少年センター機能とアートが融合できれば、活動の幅が広がる。

- 
- ・芸術は社会に対して異質なものであり、アーティストはタバコや飲酒も行うことが想定され、青少年育成の観点から、また子供による作品の破損事故を避けることも含め、製作現場と生活部分は明確に区分した方が良いのではないか。事務局としても、全部共有というのは難しいという考えがある。
  - ・国際青少年センターと芸術創造ファクトリーを複合化した時に、施設運営がどのような方向性になるかの議論が必要。
  - ・運営面は両施設を区分することが望ましいとの意見もある。
  - ・一緒に入る良さを生かすべき、という考えは全体で一致していること。  
(中村委員)

《資料》大畑少年センター利用状況 参考資料 ※ 委員会終了後、回収

- ・26年度の利用状況が少ないのは、4階の未使用（冷房機器故障のため）。
- ・ロシアとの国際交流の団体が年に数回宿泊研修を実施。
- ・スポーツ少年団が泊まって強化合宿を実施。
- ・新潟ひまわりクラブ：学童保育機能

《資料》平成27年度 大畑少年センター主催事業

- ・子どもまつり、きもだめしは人気事業である。中庭にテントを張って就寝する。
- ・こどもセミナー、魚釣りとそうめん流しも人気の事業。

《資料》平成26年度 月別利用状況

- ・個人利用に、ひまわりクラブの利用人数が含まれている。
- ・ひまわりクラブは、旧二葉中には設置しない予定。移転場所は未定。
- ・人数表記は、午前、午後、夜間のコマ数の人数となってい。

《資料》大畑少年センター（設置目的） 資料2

- ・違う学校の子どもが交流できる場を提供、ということで職員がソフトを考えている。
- ・街中ではあるが、屋外炊飯も許可を得て行っている。
- ・利便性のハンデ：バスが無いこと、坂の上であること。
- ・利用者のターゲット設定を今後検討する必要がある。

## (2) 質疑とご意見

- ・大畑少年センター長（4年間）の経験から。過去には、大畑少年センターを廃止しても良いかが議論された時期がある。大きな課題としては、利用者数が少ないこと。5万人を超える目標は現在は達成している。  
新潟小学校と大畑小学校を合併する時に、地域の住民が使える施設として残して欲しいとの地域住民から陳情があった。また、この件は当時議会でも議論になった。（福島委員）
- ・自治会の利用は残すのか。（中村委員）
  - 大畑少年センター周辺住民と旧二葉中周辺住民とでは意見が異なる  
旧二葉中周辺の住民からは、地域住民が交流できる場所が欲しい、  
という意見はいただいている。  
青少年センターということになると、今の大畑少年センターから利用  
年齢を広げることを検討していかなければならない。対象を保育園
- ・小・中・高・大学生とすると、その他は難しいと思う。検討委員会の中  
で、地域の人たちも、芸術とか青少年とふれあえる場が必要という意見が  
出れば、そこも考えていかなければならない。  
（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・高校生利用まで広げるという方針はどうなるのか。（中村委員）
  - 青少年という名前に変わるのであれば、青年の定義である39歳くらい  
までなので、どこまで広げるか、今後決めていかなければならない。  
（枝並 地域教育推進課長補佐）

## (3) 施設内容について


《資料》大畑少年センター（設置目的） 資料2

- ◎集団生活及び遊びを通した健全育成
- ◎豊かな体験活動によるたくましい成長

### ○「海岸」「砂浜」「松林」等地の利を活かすためのソフトとそれに伴い、必要と思われる設備

- ・体験活動の内容により施設が変わるだろう。  
新潟80万都市の都会の中にある良さも加味していきたい。（福島委員）
- ・具体的に都会の良さとは？（中村委員）
  - 高い建物がある、食品が多様であるナイトウォークでは萬代橋、朱鷺  
メッセの夜景美を堪能できる。（福島委員）

- ・学校行事としての宿泊施設として利用する場合、県の研修センター、胎内、高柳などの施設は非日常的な所だが、旧二葉中は日常に近い場所。日常的な空間で、どのようにして非日常を作って、仲間づくりができるか。ただ、一方で、日常的な空間なので、学校に持ち帰れるというメリットを生かせないか。（長浜委員）
  
- ・胎内、五頭、妙高では非日常の体験で心を豊かにすることができるが、旧二葉中では、そこまでの非日常性は体験できないだろう。大きな音を出せば近隣から苦情がくる可能性がある。
- ・ランク付けするとしたら初級の体験活動の場としてはどうか、初めて火をおこす等。
- ・初級リーダー研修の場としてプログラムを組んでみてはどうか。（福島委員）
  
- ・都会に近いとはいえ、海岸、砂浜、松林、海水浴、散策路があることが良い。星空も良く見えるかもしれないし、波の音、潮騒の香り等、大畑少年センターよりも自然に触れ合うことができる。（近藤委員）
  
- ・他の施設との差別化を図るべき。アグリパークは農業の体験をしつつ学びが重視されている。学校規模で学年全員が泊まれる学校と泊まらない学校があるだろうから、逆に小さい学校の宿泊に向いているとPRしたり、中学校単位でリーダー研修等を行うのが良いのではないか。（齊藤委員）
- ・具体的にリーダーとは？（長浜委員）
  - 個人的には子供のリーダーをイメージしている。社会的に地域に戻って子供会の祭り等で進行役を務めるリーダー。（福島委員）
- ・ボーイスカウト的なものか？（中村委員）
  - もう少し広い意味で考えている。児童会が無くなってきているし、ファシリテーター的な力をつけるイメージ。（福島委員）
  - 地域の課題について解決できるリーダーが求められるということですね。（中村委員）
- ・そのような人材を育てる場所とか物とかは？（長浜委員）
  - 人と交流する場である教室、屋外の炊飯施設だと考えます。（福島委員）

- 
- 自分達でプログラムを企画まで行うというのはどうか。  
(中村委員)
  - ・ グランドの脇から海へ降りられるのか？ (中村委員)
    - 今はない。
    - 歩道、信号、動線の確保やシャワー施設等も必要でしょう。  
(各委員)
  - ・ 海が開けているので、使用しない手はない。中条自然の家の運営が落ち込んだ時には、カヌーで持ち直した経緯がある。今はカヌーをしたくて中条へ行く。(福島委員)
  - ・ ウインドサーフィンはどうか。(中村委員)
    - テトラポットの内側だと難しいかと。(長浜委員)
  - ・ 万が一の歳の監視はどうするか。(長浜委員)
    - 人、ライフジャケット、AEDが必要。中条は緊急用のモーターボートを持っている。(福島委員)
  - ・ 最大限海を生かす方向性がよい。(中村委員)
  - ・ アグリパークの意見があったが、旧二葉中は野草、野鳥の観察、夜空、雲の観察等。アグリパークは農だが、旧二葉は自然と海。また、海の生物となると、近隣に水族館があるが、こういった施設と共同でなにか活動ができないか。(近藤委員)
    - 大畑少年センターでは、近隣の美術館とのウォークラリーは行っている。(福島委員)
  - ・ 松林は砂との戦いで生まれたもの。(福島委員)
  - ・ キャンプを行うにあたっては、近隣住民から意見は出ていないか。  
(福島委員)
    - 校舎より海側だと住宅があまりない。(中村委員)
    - グラウンド側だと、人が好き勝手に入ってきて、24時間体制で警備が必要になる。特に夜間警備が難しい。(福島委員)
  - ・ テントが張れる場所、シャワーや着替える場所、炊飯をするための水回りが必要。(福島委員)

- ・心配なのは、海水浴やテント泊は夏だけの一時期だけの行事であること。年間を通しての視点で考えると、そこは課題。  
安全上、泳ぎは不可としているが、ハバロフスクの子供達が一番喜ぶのが海。期間限定でも、インストラクターを付けて教えてくれて、なおかつ安全が確保できればと。旧齋藤家別邸や美術館も喜んで見るので、これだと通年ご案内できるので、ウォークラリーにプラスできないか。齊藤委員)
- ・海に入らなくてもサンドアートなどの砂の活用もある。(中村委員)

### ○ 特に平日の利用者、冬期の利用者のためのソフトとそれに伴い、必要と思われる設備

- ・平日は学校があるので利用者が少ない。高校生であれば、放課後から夜間まで利用可能。4時から8時頃までの高校生対象のプログラムを考えてはどうか。また、高校生に企画させるのはどうか。  
小・中学生は自分だけでは移動できないだろう。保護者が一緒。  
(長浜委員)
- ・動線的には高校生が通る場所ではないのでは。(長浜委員)  
→ 新潟青陵の生徒に遠回りして通ってもらってはどうか。何か引き付けるものを検討することになる。(福島委員)
- ・お祭りの時に、高校生による企画イベントを行うのはどうか。(中村委員)
- ・放課後に使いたい人が足がないという人もいるが、放課後の時間帯で来れ人もいる。青少年が興味があること、例えば音楽、体を動かす、勉強する場等、定期的な利用と魅力が必要。(齊藤委員)
- ・親子で星座観察等であれば、平日も利用があるのではないか。  
(中村委員)
- ・平日の昼間ということであれば、幼児利用になるのではないか。保育園単位、幼稚園単位での利用はないだろうか。(長浜委員)
- ・小中高とした場合、放課後利用がメインになる。(中村委員)
- ・家ではできない事ができる場所づくり、大きな声を出す、いくら汚しても良いという発散の場の提供。シャワーが必要になる。(長浜委員)  
→ 手に絵具を一杯つけて遊ぶ等は芸術創造ファクトリーと連携可能。  
(中村委員)



- ・今回の施設は、いわゆる児童館・児童センターとは違う。大畑少年センターは子育ての場がメインの施設ではないが、場を提供している。しかし利用者は日に2組程度。（福島委員）
- ・児童館・児童センター、こども創造センターのような綺麗なイメージではなく、泥だらけになるようなイメージ。それは、家では出来ない体験。（長浜委員）
- ・東京のプレーパークのような泥だらけになれたり、体を大きく使えるような自由な場は、旧二葉中にはあわないだろうか。（中村委員）
- ・未就学児も遊べ、冬季の利用も可能な体育館も活用すべき。（近藤委員）
- ・平日の昼は小中高の利用は見込めないだろうから、未就学児童に積極的に利用してもらうのはどうか。（近藤委員）
- ・国際交流（ロシア）が利用人数を上げるのには有効。2週間程滞在し、大学生の利用もある。（福島委員）
- ・長岡は遠いが大学生の利用も検討してはどうか。（中村委員）

○ 創造ファクトリーとの共有部分を考えながら現在の大畑少年センターにプラスした方がよいと思われる施設

- ・情報発信機能が必要。WEB情報や展示等。（福島委員）
- ・青少年センター機能施設は、携帯やスマホは使用不可としてはどうか。必要な時のみ貸出。電子機器から解放される空間にした方が良いのではないか。（長浜委員）
  - 創造ファクトリーの方だとネットを使用して物をつくるという時代があるので、そことどうするか検討。（中村委員）
  - 創造ファクトリー機能と調整が必要。宿泊部分も禁止とするか。（近藤委員）
  - 大畑少年センターは現在禁止となっている。（福島委員）
  - 高校生は禁止するのは難しいのではないか。人間関係もあるので全面禁止は難しい。（齊藤委員）
  - 基本禁止だけど、場面によっては貸し出しますよ、とか対応できないか。（福島委員）
- ・高校では携帯の使用を禁止していないのか。（福島委員）
  - 高校の学校内の使用は高校毎の校則による。（長浜委員）

- ・新潟の伝統文化を学べるような講座に外国人にも参加して頂けると良い。茶道、新潟民謡 万代太鼓等、外国人が日本にきた時に、ここに行けば、体験できるという場が欲しい。(齊藤委員)
  - 今は、来ることが決まってから、どこに行くか探している。日本文化を取り入れ事は個人的には賛成。
  - 縁日、金魚すくい、ヨーヨー釣り等もおもしろい。(中村委員)
- ・昼間の利用として、何をしても良いし、誰も何も言わないような場、ドリンクルームやカフェはどうか。(長浜委員)
  - ゆったりとした空間が青少年に必要だろう(中村委員)
- ・日本的なことを考えると和室の空間があると良い。水屋もあれば、学習する際は良い。(中村委員)
  - 外国の方が来た時に、茶室を伝えるには水屋があると良いだろう。和室だと利用が限られる可能性もある。(福島委員)
  
- ・今日、結論が出るものではないが、駐車場の利用数。大畑少年センターが移った時の住民との関係。また、運営体制をどうするか。(福島委員)
  
- ・どんな国と交流をおこなっているのか。(福島委員)
  - ハバロフスク、ハルピン、ピロビジャン、ウルサンの4都市と相互国際交流を行っている。
- ・現在はホームステイが中心なのか。(福島委員)
  - 先方ではホテルを用意頂いているので、こちらでもホテルに滞在頂いているのが実情。そのため、大畑少年センターでの宿泊利用は行っていない。(齊藤委員)
- ・シャワーを浴びるにも文化の違いがでる。扉を開け放しで床に漏水等、職員の対応が難しいようだが。(福島委員)
  - 事前に日本の文化を説明頂いているので比較的トラブルは少ない。(齊藤委員)

### 3. 連絡

(1) 第3回委員会の日程について： 日程調整表を今週中に地域教育推進課に提出

日時 : 9月28日 から 10月2日 間で決定予定

場所 : 未定

以上

# M03

## 策定検討委員会議事録（第2回）分科会2

- 日時 : 平成27年8月31日（月） 15:30～17:30  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 白2-402会議室
- 出席者 委員 : 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座 教授)  
逸見 覚 ((株) けんと放送 取締役 放送局長)  
長井 亮一 (新潟市文化スポーツ部 部長)  
池主 透子 (TC-Wave 代表)  
菊野 麻子 (フリーアナウンサー)  
太下 義之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 芸術・文化政策センター/主席研究員・センター長)
- 出席者 事務局 : 中野 力 (文化スポーツ部文化政策課 課長)  
鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)  
黒川 正憲 (文化スポーツ部文化政策課 主査)  
枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)
- 出席者 策定支援 : 町田 誠 (本間総合建築 取締役)  
全体進行 : 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座 教授)  
傍聴者 : 1名

### ◆ 議事内容

#### 1. 文化政策課長挨拶

: 中野 力 (文化スポーツ部文化政策課 課長)

- ・前回の委員会では、青少年センターと目合わせを行った。今回は、創造ファクトリーとして、どのような姿であるべきか、提案を頂きたい。また、アドバイザーの太下さまからも貴重なご意見を頂けると思う。

#### 2. 検討委員会アドバイザー挨拶

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会アドバイザー  
プロフィール

: 太下 義之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 芸術・文化政策センター/主席研究員・センター長)

- ・新潟市東アジア文化都市の委員に就任。

### 3. 議事

#### (1) 第1回検討委員会の意見整理

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会（第1回）委員意見集約

： 丹治 嘉彦 （新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）

- ・資料にそって内容を説明

《資料》芸術創造ファクトリーの整備についての想定利用者からの意見 別紙

： 鈴木 稔直 （文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）


- ・前回の委員会にて、実際に使用するアーティストに意見を聞いたほうが良いとのご意見を頂き、2つのギャラリーにヒアリングを行った。
- ・アートサロン環と植物染め「浜五」工房のヒアリング内容を説明。アートサロン環：ファクトリー機能としては情報発信の場としての活用はどうか。浜五：ギャラリーは作家の取り合いになっている。翻訳や、輸送費助成、海外との仲介やキュレーターがいるとありがたい。

#### (2) 意見交換 1

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会（第1回）資料

： 丹治 嘉彦 （新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）

- ・りゅーとぴあや音楽文化会館等、新潟では舞台芸術系統は充実しているので、ここでは別の分野を充実すべき。また公民館との差別が必要。市民だけの施設や専門家のみの利用も良くないので悩ましい。また、地域の方々の利用も念頭に置かなければならない。  
運営面で言えば、アーツ千代田は、芸大の先生がリーダーをつとめ、16名くらいのスタッフで事業をしている。行政から10名以上もスタッフをそろえるのは難しいだろう。（長井委員）
- 舞台芸術面では、新潟は充実していると思われる。今回の施設に、どの様にオリジナリティを持たせるかが課題。運営面ではアーツ千代田は苦勞話を聞くが、全国としても有数の成功事例。しかし、そのまま、持ってこれない面もある。（丹治委員）



・運営においてディレクターを置くのか、行政が主体なのかを何時決めるのか。また、アーティストは作品を売ることができるのか。（池主委員）

→ これからの検討課題である。

（文化スポーツ部文化政策課 中野課長）

・アートという幅が広い。絵画や彫刻などの表現に係るアート以外にも、人の生活の中の手仕事などの機能的なアートもある。（丹治委員）

・やり方を間違えると公民館になってしまう。青少年センターと創造ファクトリーを融合させることで、オリジナティーが出せる。施設を分けるがどうかでディレクター設置についても変わってくると思う。個人的には、機能を完全に分離して、それぞれにディレクターを置くのではなく、青少年も芸術もみることができるディレクターを置き、その下に各分野に強い人を置くのが良いと思う。（逸見委員）

→ 1人のディレクターで両施設を見ることができるはずもないので 補佐役の人は必要。（丹治委員）

・こども創造センターは、どのように運営しているのか。（丹治委員）

→ 今後、資料を用意する。

（文化スポーツ部文化政策課 鈴木課長補佐）

・施設管理者ではなくディレクターを置くのであれば、早いうちに委員会に入れるべき。（菊野委員）

→ 名前だけの方をディレクターに置いて、スタッフが苦勞するのはさげたい。（丹治委員）

・ディレクターになる人の事業展開の意見を聴いて討論していかなければならないが、行政であるので、誰をディレクターにするかを、この段階では決められない。施設のあり方も含めて、いろいろな提案を入れつつディレクターを選べれるとよい。青少年センターは直営を考えているのではないか。（長井委員）

→ こども創造センターについては、にいがたみらい共同事業体による指定管理。指定制度の導入もあり得る。

（文化スポーツ部文化政策課中野課長）

・ディレクターをどうするかが、大きな問題であり、どの様な人にディレクターを頼むかを同時進行で決める必要があるのでは。（丹治委員）

- ・本日の午前中に千代田アーツ3331で打合せを行ってきた。331の運営は指定管理ではなく、NPOが千代田区に賃料を払っている、珍しい施設。ギャラリーは民間より安くすると、問題がおきるだろう。3331では、作家の交換の国際ネットワークであるので、レジデンス機能を維持できている。ここではそこまで行うか。教室・スタジオは場があれば良いということではない、東京には芸術家と子どもたちというNPOがあり特別なノウハウを持っている。ライブラリーは、そこに行くとき新しい出会いが得られるという、例えばオリジナルな本棚の並べ方である等の仕掛けが必要である。デザイナーズビレッジは単に貸しオフィスではダメで、行政がある程度サポート（お金ではなく）起業支援が必要。資料では、創造ファクトリーとして十分な機能提案内容となっているが、運営していくのは大変な努力が必要である。まずは、ディレクターを先に決めるべき。新潟であれば、水と土の芸術祭という資産があるので、アーカイブセンターがあると良いと思う。（太下アドバイザー）

## 大畑少年センターの利用状況の説明

《資料》平成26年度 月別利用状況

《資料》平成27年度 大畑少年センター主催事業

説明 : 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・大畑少年センターでは、学校間のコミュニケーションの場として利用して頂くのが大切と考えている。
- ・宿泊が集中するのは6から8月が多い。夏休み以外は土日週末に限られ、月に3団体程度の利用がある。スポーツ少年団の日帰り利用が多い。平日の利用者は保育園、幼稚園の利用者が多い。
- ・利用者は減少傾向にある。
- ・主催事業の参加費とはなにか。（逸見委員）  
→ 主に食品材料代。（教育委員会地域教育推進課 枝並課長補佐）
- ・基本的には大畑少年センター機能をここへ持ってくるのか。（池主委員）  
→ その通り。高校生、大学生利用も考えている。  
（教育委員会地域教育推進課 枝並課長補佐）

### (3) 意見交換 2

- ・芸術の定義づけが必要ではないか。受け入れるアーティストのグレードもある。前回の3331、浅草、金沢等の模倣施設ではなくて、伝統工芸も含み、新潟独自の施設であるべき（菊野委員）
- ここで、ものづくりもできるし販売もできる工芸も芸術と考える。公民館で活動している工芸家の方もいれるのか。（長井委員）
- 3331ではディレクターが全て仕掛けている訳ではない。テナント業的な部分もある、AKBのイベントにも利用。（太下アドバイザー）
- 民間のディレクターが線を引くのは良いが行政では難しいだろう。（長井委員）
  
- ・新潟独自の文化を入れながら、芸術家を育てていくことは難しい。（丹治委員）
- 芸術家も食べていけるように、収益性を得るまでアドバイスするのは行政の運営では難しいだろう。青少年機能でも創造ファクトリー機能もどちらも集客が大事。（池主委員）
- ・新潟の人口が減っていく中で集客を上げる自助努力が大切。（丹治委員）
- ・青少年センター機能では収益を得られないだろう。芸術創造ファクトリー部分も何で収益を得るのか。指定管理者は年間いくらで動かしてくださいという制度か。（逸見委員）
- アイスアリーナ等は、行政からお金は出していないが、その通り。（長井委員）
- ・アーティストはお金がない人が多いので、ギャラリーを借りる人がいるのか。（逸見委員）
- 企業とアーティストのマッチングの場としてならば可能性がある。（菊野委員）
- デザインは企業秘密もあり、一緒はあり得ないが、建築家はある桜木町に作家のアトリエ兼オープンスペースある。建築家と作家のアトリエ。（丹治委員）
- ・会社でレンタルオフィス事業をやっているが、マッチングはなかなかうまくいかない。（逸見委員）

・ 青少年センター機能と創造ファクトリーの複合化のイメージが難しい。  
(池主委員)

・ 新潟独自の施設をつくるのが難しい。近隣施設では、どの程度の利用があるのか。(菊野委員)

→ 参考までに水と土の芸術祭では、初日1500人、土日は1000人、平日は200人、芸術祭でこの程度。来場者数にとらわれてもいけないが少なくとも難しい。(丹治委員)

→ 近隣の美術館も同じ程度の稼働率、企画展でも1日2000人程度。  
(長井委員)

・ 利用対象者(来館者)も、視野を広げると、Noismのように海外の人たちに認知度の高い団体もある。海外の方が新潟文化を評価して頂けるのではないか。(菊野委員)

・ オリジナルのウィンドサーフィンのボードを作る企画など。  
(逸見委員)

・ 旧二葉中学校は新潟で一番海に近い中学校である。自然との一体化は良い考えだと思う。(丹治委員)


→ 行政が行うというのは、間口を広げるということだろう。サーフィンでもアートになるのではないか。(池主委員)

・ ディレクターのポジションとスタッフも早急に検討が必要である。その上で、新潟のオリジナリティや芸術の意味の討論を行うのが良い。提案では校舎の中に多機能が盛り込まれており、その機能毎に専門家が必要である。社長に部長が必要なイメージ。この中で何をメインにするかを考えるべき。例えばギャラリーをメインとした場合、市内のギャラリーとの差別化が必要。市内でギャラリーを既に運営されている方を公募で探し、そのギャラリーをどのようにサポートするか等、中核にする機能を決めて検討していくのはどうか。先ほど横浜のシェアオフィスの話が出たが横浜で可能なのは東である。シェアオフィスも検討するのであれば、新潟市の産業部門と組む京近郊だから必要がある。

(太下アドバイザー)

・ 新潟のオリジナリティを出していきたい。仮にギャラリーをメインとしてはどうかという意見もでたが、青少年センターとのコラボレーションも外せない。(丹治委員)



- 
- ・教室、スタジオがメインだと思う。木金属工房で日本の伝統文化 について学ぶのも良い。（長井委員）
  - ・お茶のできる和室が必要。本格的な水屋でなくても良い。（池主委員）
  - ・アーティストとの接点として、水と土の芸術のベースキャンプを中心としてはどうか。（菊野委員）
  - ・教室、スタジオ等、アーティストと触れ合える場を中心が良いのではない  
か。ギャラリーは、アーティストがいなければ触れ合うことができない。  
他の施設との差別化を考えるべきで、ここではアーティストとのコラボレ  
ーションがメインと思います。ギャラリーを設置する場合には収益性をあ  
てにしてはならないし、レジデンスはテント張っても、市内のホテルに泊  
まり、制作はここに通ってもよいのではないか。（太下アドバイザー）

#### 4. 連絡

- (1) 第3回委員会の日程について： 日程調整表を今週中に文化政策課に 提出
- 日時 ： 9月28日 から 10月2日 間で決定予定
- 場所 ： 未定

以上

# M 04 策定検討委員会議事録（第3回）

日時 : 平成27年10月28日（火） 9:30～11:30  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 1号棟 2階 教育会議室1

出席者 委員 : 中村 恵子 (新潟青陵大学 教授)  
福島 實 (新潟市子ども会連絡協議会 会長)  
齊藤 裕子 (新潟市教育委員会学校支援課 副参事)  
長浜 裕子 (新潟市教育委員会 教育次長)  
丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座 教授)  
逸見 覚 ((株) けんと放送 取締役 放送局長)  
池主 透子 (TC-Wave 代表)  
長井 亮一 (新潟市文化スポーツ部 部長)

欠席者 委員 : 近藤 淳一 (新潟国際友好会館 館長)  
菊野 麻子 (フリーアナウンサー)

出席者 事務局 : 佐々木 克己 (教育委員会地域教育推進課 課長)  
枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)  
増田 徹 (教育委員会地域教育推進課 副主査)  
中野 力 (文化スポーツ部文化政策課 課長)  
鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)  
黒川 正憲 (文化スポーツ部文化政策課 主査)  
諸橋 真樹 (建築部公共建築第2課 課長補佐)  
江部 達哉 (建築部公共建築第2課 主幹)  
須貝 允英 (建築部公共建築第2課 副主査)  
阿部 康道 (大畑少年センター 所長)  
半藤 千枝子 (大畑少年センター 事業担当)

出席者 策定支援 : 町田 誠 (本間総合建築 取締役)  
全体進行 : 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

傍聴者 : 2名

## ◆ 議事内容

### 1. 事務局挨拶

： 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・ 前回行われた各部会（国際青少年センター機能と芸術創造ファクトリー機能）では、多くの熱いご意見を頂いた。本日の委員会では理念や方針について、意見を頂きたい。全体のスケジュールとしては遅れているが、議事内で今後のスケジュールについて説明を行う。

### 2. 議事 ※進行は委員長

#### (1) 施設の整備基本方針（案）について

《資料》国際青少年センター・芸術ファクトリー施設整備基本方針（案） 資料1

#### ・《基本理念》を説明

【（仮称）国際青少年センター】の基本理念説明

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・ 集団活動、様々な体験を行う、コミュニケーション能力や自立心、等々、あらゆる理念を全てを盛り込みすぎと思ったが、広く視野に入れるということであれば、これで良い。（長井委員）
  - 体験活動を通じて育まれるものを取り入れている。（佐々木 地域教育推進課長）
- ・ 具体的に育まれる内容を提示はしなくてもよく、文面で全てを列挙する必要はないのではないか。（福島委員）
- ・ 表現が「○○させる」など、言い方がきついのではないか。（長井委員）
- ・ 両施設をリンクさせ理念内容に新潟市らしさが欲しい。（福島委員）
  - 今後検討する。（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・ こども創作活動館との差が必要ではないか。具体的に育まれる内容の記載が欲しい。（丹治委員）

【(仮称)芸術創造ファクトリー】の基本理念説明

： 鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)

- ・「水と土の芸術祭を鑑賞できる場とし、」の意味が通じない。  
(長井委員)  
→ 表現を検討する。(中野 文化政策課長)
- ・国際青少年センターと芸術創造ファクトリーを結びつける理念も欲しい。  
(福島委員)
- ・地域と共につくり上げる施設という記載が必要ではないか。(丹治委員)
- ・地域という範囲のディスカッションが必要。(長浜委員)
- ・地域といっても範囲が明確ではない。(中村委員)
- ・二葉中の近隣や町内会の理解と連携が必要。具体的には高齢者が孫と一緒に参加する等が想定される。地域、市民が主役になるようにしてはどうか。(丹治委員)
- ・市としては当建物は全市的な施設と考える。地域という言葉に記載すると限定的な意味合いを帯びてしまい、フレーズとして使用するのはいかがなものか。(長井委員)
- ・小さい単位(地域)でも主役になれるという位置付けが欲しい。  
(丹治委員)
- ・複合施設であるので地域に関しては施設全体として理念に入れるべき。  
(長浜委員)
  
- ・ボランティア等、地域の力で活性化する旨も欲しい。(福島委員)
- ・「…様々な分野に活用し、」と「…活性化につなげる必要がある。」の間に言葉がないとつながりにくい。(長浜委員)
- ・前後の目的が合っていないので唐突な感じがする。(中村委員)
- ・最後の文章の書き方だと思う。各段落にそれぞれ目的があるので、それをどうするかが問題。(長井委員)
- ・目的にバラバラ感が否めない。(中村委員)
- ・理念を読む限り、よくある『宿泊できる公民館』ができるような印象。2つの機能が複合化した施設は全国に例を見ないのでないか。国際的でローバルな視点を育める子どもたちが全国から集まるような施設にならないか。(逸見委員)
- ・独自性、地域性という視点から立地を生かした方針としてはどうか。  
(池主委員)

・《施設の機能》を説明

《資料》施設整備基本計画案 資料2

《資料》委員意見に対する事務局案 資料1（参考）

【（仮称）国際青少年センター】

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

【（仮称）芸術創造ファクトリー】

： 鈴木 稔直 （文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）

・委員意見に対する事務局案（資料1参考）はどのようなものか。

（福島委員）

→ 事務局案をまとめたものが施設の機能以下に記載している。

（枝並 地域教育推進課長補佐）

・言いまわしは国際青少年センターの（1）において、協同→協働、奉仕→ボランティア、日本の文化→新潟の文化、が良い。複合化した機能説明も必要、先に両施設の合わせた機能説明が良いのでは。（丹治委員）

・《整備・運営手法》を説明

【（仮称）国際青少年センター】

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

・国際青少年センターではスタート時、正規の職員は5～10名程度を考えているのか。（福島委員）

→ 未検討である。（枝並 地域教育推進課長補佐）

・大畑少年センターでは4～5名で運営している。芸術創造ファクトリーではどの程度の人員が必要か。（福島委員）

→ ディレクターの配置が重要であり、人員はあまりいらなと思う。（鈴木 文化政策課長補佐）

・ディレクターについては、青少年センターでは話題となっていないが、その辺をどう考えるのか。（逸見委員）

→ 国際青少年センターの分科会の意見としては、企画運営を考えるのはディレクターではなく館長や職員をイメージしていた。

（長浜委員）


- ・全国の先進事例となるように、ブランドを作っていくのがディレクターではないか。ディレクターが両方の施設を見なければ、建物に両方の機能が入っているだけの施設になる可能性がある。（逸見委員）
- ・ディレクションするということは、職員とのやりとり等、総合的な役割を担う。両機能の施設全体の目配りができる役職が総合ディレクターではないか。責任の所在をはっきりとさせたい。（丹治委員）
- ・館長が全体の最終責任者と考えたと案2と思う。（長浜委員）
- ・ディレクターの役割は案1の方が大きいだろうし、案2の場合は館長の役割が大きくなるだろう。（福島委員）
- ・2つの施設が一体となって機能するには、両方を見てコーディネートできる仕組みが良いと思う。（齊藤委員）
- ・芸術創造ファクトリーの（1）のところだが、提供。でとめて、それ以下はかっこ書きにした方が良い。（池主委員）
- ・事務局案では、芸術創造ファクトリーでも和室が必要とあるが、どのような必要性からか。（長浜委員）
  - ここに来館する方が、お茶の文化を経験できる場の提供として意見がでている。（鈴木 文化政策課長補佐）
  - 特別な芸術ということではなく、外国人のアーティストがインスピレーションを得られる場としても良いのではないかと。（池主委員）

## (2) 施設レイアウト（案）について

《資料》施設整備基本計画案 資料2

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・1階と4階に芸術と複合施設をプランした意図はなにか。芸術創造ファクトリーを24時間利用とした場合は、セキュリティが難しいのではないかと。（長浜委員）
  - 4階の眺望を国際青少年センター機能のみで独占しないように、また体育館1階に計画している浴室との動線も考慮した。セキュリティに関しては、1階のみカード管理による24時間利用を検討している。（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・芸術作品を製作時には音が出る。また、水土アーカイブは作品保存上、光が入らない方が良い。またバリアフリーも考慮すれば1階と2階が芸術ファクトリーが良いと考える。（丹治委員）

- 
- ・芸術作品の製作時間は、水と土の芸術祭ではどの様に設定されていたのか。水土ディレクター経験から丹治委員に確認したい。  
(鈴木 文化政策課長補佐)
    - 夕方6時までを製作期間としていたが、開期直前は22時くらいまで行っていた。(丹治委員)
  - ・2階が青少年センター部の浴室となっているがスムーズに利用できるか。  
(福島委員)
    - 建築家と調整したい。(鈴木 文化政策課長補佐)
  - ・前回の委員会では、2段ベッドで8人部屋ではなく、和室で布団の部屋という意見もあった。(齊藤委員)
  - ・和室の場合には多目的室としても利用できる。(福島委員)
    - 寝具の片付けの利便性を考えるとベッドが優れる。  
(佐々木 地域教育推進課長)
  - ・障害を持った方も宿泊できる施設が求められるのではないか。  
(丹治委員)
  - ・ユニバーサルデザインとしての観点も必要だろう。(中村委員)
  - ・大型バス4台というのは、青少年センター機能としての駐車場を想定しているのか。(長井委員)
    - そのとおり。大型バスは、道路幅を考慮し海岸からの道路アプローチで考えている。(枝並 地域教育推進課長補佐)
  - ・自然を生かしたプログラムの施設としてはどのような機能があるのか。  
(中村委員)
    - シャワー施設は必要と考えている。東側の森からのアプローチ動線があるが、セキュリティが問題を解決しなければならない。  
(枝並 地域教育推進課長補佐)
  - ・テントが張れるスペースはあるのか。松林の中ではどうか。(福島委員)
    - 敷地内で検討中である。松林では、セキュリティ上むずかしい。  
(枝並 地域教育推進課長補佐)
  - ・松林でテントを張るのは体験としては冒険的で良い、規制概念にとらわれずに考えてはどうか。(丹治委員)

### (3) 今後のスケジュールについて

《資料》旧二葉中学校校舎利活用事業スケジュール（平成27年度）資料3

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・ スケジュール説明
- ・ 整備予算はどのようになっているか。（長井委員）
  - 整備予算は28年度で取得し、平成28年度中に工事を開始して、29年度秋に1は運営開始としたい。


### (4) 基本構想の骨子について

《資料》（仮称）国際青少年センター・芸術創造ファクトリー基本構想・基本計画  
（骨子案） 資料4

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・ 骨子案説明
- ・ 連携のメリット、目的、独自性等の意見をいただきたい。  
（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・ 施設全体の理念というのは、書きにくい。それぞれの施設がどう交わるかについて、ご意見をいただきたい。青少年センターから、芸術創造ファクトリーへの提案もあるかもしれない。こんなことができるのではないかと、お話をいただければ、ありがたい。（佐々木 地域教育推進課長）
- ・ 現状の施設の予約はどのようになっているか（逸見委員）
  - 市内の利用者は6ヶ月前から、市外の利用者は2ヶ月前からとなっている。（半藤 大畑少年センター 事業担当）
- ・ アーティストの招聘に合わせて、少し前にこういう企画を行うので子どもたちを募るというのは可能か。（池主委員）
  - 今日の明日は無理だが、少し前であれば可能かもしれない。  
（長浜委員）
- ・ カレーを宿泊の子どもたちが作る場合は、インド人アーティストを呼ぶというソフトの連携もありではないか。（逸見委員）
- ・ 総合ディレクターが年間スケジュール等の管理をできれば、相互交流うまくいく。（丹治委員）



- 
- ・芸術創造ファクトリーで招きたいアーティストが、子どものみが対象ではないプログラムの場合はどうするのか。（長浜委員）
    - 子どもたちがあまり利用しない時期は、作品展示を中心にしたアーティストを呼ぶなど是可以する。（丹治委員）
  - ・ディレクターがアーティストを呼ぶというイメージか。（長浜委員）
    - ケースバイケース、職員の話し合いで決めるが、当初はディレクターが進めることになるのではないか。（丹治委員）
  - ・アーティストを探してくる方とファシリテーターとしての能力のある方が必要だろう。一人で両方できる方がいれば、それでも良い。（中村委員）

### 3. 連絡

第4回委員会の日程について： 日程調整表を11月6日までに事務局に提出。

以上

# M 05

## 策定検討委員会議事録（第4回）

日時 : 平成27年11月27日（金） 9:30～11:30  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 7号棟 白7?405会議室

出席者 委員 : 中村 恵子 (新潟青陵大学 教授)  
福島 實 (新潟市子ども会連絡協議会 会長)  
近藤 淳一 (新潟国際友好会館 館長)  
齊藤 裕子 (新潟市教育委員会学校支援課副参事)  
長浜 裕子 (新潟市教育委員会 教育次長)  
丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座教授)  
逸見 覚 ((株) けんと放送 取締役 放送局長)  
池主 透子 (TC-Wave 代表)  
野 麻子 (フリーアナウンサー)  
長井 亮一 (新潟市文化スポーツ部 部長)

出席者 アドバイザー : 太下 義之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング  
(株) 芸術・文化政策センター/主席研究  
員・センター長)

出席者 事務局 : 佐々木 克己 (教育委員会地域教育推進課 課長)  
枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)  
増田 徹 (教育委員会地域教育推進課副主査)  
中野 力 (文化スポーツ部文化政策課課長)  
鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)  
黒川 正憲 (文化スポーツ部文化政策課 主査)  
諸橋 真樹 (建築部公共建築第2課 課長補佐)  
宮崎 嘉孝 (建築部公共建築第2課 係長)  
須貝 允英 (建築部公共建築第2課 副主査)  
阿部 康道 (大畑少年センター 所長)  
半藤 千枝子 (大畑少年センター 事業担)

出席者 策定支援 : 町田 誠 (本間総合建築 取締役)  
全体進行 : 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長 補佐)

傍聴者 : 2名

## ◆ 議事内容

### 1. 事務局挨拶

： 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・ 本日は、基本構想の素案について、また施設のレイアウトについて、ご意見をいただきたい。今までの委員会で出された願いと熱い思いを点から線へとまとめていき、その素案をもとに市民から理解が得られるようなパブリックコメントを取りたいと考えている。前回に続き忌憚のないご意見をいただきたい。

### 2. 議事 ※進行は中村委員長

#### (1) 基本構想（素案）について

《資料》（仮称）国際青少年センター・（仮称）芸術ファクトリー基本構想（素案）資料1

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・ 資料をを説明


#### 《2 背景》に対するご意見

- ・ （引用 国立青少年教育振興機構）の引用の範囲を教えてください。（長浜委員）
  - “急激な勢いで.. から（引用 国立青少年教育振興機構 H22.3）”までを長文であったので若干かいつまんで引用している。（枝並 地域教育推進課長補佐）
  - 少子高齢化という問題が、青少年の非行や不登校などの問題を深刻化させているとか、あるいは若者の社会的自立の遅れを生じさせているかということ、素直につながらない印象を受ける。引用を端折ったということであれば、もとの文章をもう少し精査し修正する必要があるのではないか。“これらの諸問題のうち..”という文章もこれらの諸問題が何をさしているのかわからない。また、“特に強く指摘されている”というのがつながりにくい。その次に新潟市の状況につながっていくが、素直に流れず、頭に入らない。（長浜委員）

- 中央教育審議会や生涯学習審議会の方が引用先より大きな機関であるので、本来はそこから引用すべきではないか。（中村委員）
- ご指摘のとおり。事務局にて大もとの文章からの引用を検討します。（枝並 地域教育推進課長補佐）

### 《3 基本理念》に対するご意見

- ・ 一番下のト書きに書かれている“青少年健全育成と..”の文章が一番重要な集約した文章となっており、その中で「心豊かな子どもの育成」は分かりやすいが、「心豊かな生活の実現」が施設が目指すものとして大きすぎて一施設で可能なのか。もう少しこの施設に基づいた内容にすべきではないか。  
「育成」と言った場合は施設が主語になると思うが、「心豊かな生活の実現」と言った場合には、市民が主語になると思う。（中村委員）
- ・ 《5 施設機能》の中の（4）創作活動機能は、市民の「心豊かな生活」と、どのようにつながるのか。（齊藤委員）
  - 「心豊かな生活」というのは、文化創造都市ビジョンの目指すところである。委員長がおっしゃるとおり、その施設自体として考え検討する。（鈴木 文化政策課長補佐）
- ・ 第一段落が青少年センター、第二段落が文化芸術というふうに捉えられると思う。第三段落において、新潟市がこの施設をともに育てていく文言を入れられないか。大畑少年センターが単なる教育委員会の施設、または行政の施設であって、浮いているような見方をしたくはない。様々な文化活動や青少年活動も市民の支えと融合で新しいものが生まれるのではないか。水士や十日町の例でも自分たちが主体ではないが市民が支えている。市民を含めた「総掛かり」というイメージの言葉が欲しい。  
（福島委員）
  - 基本理念を説明する文章が必要ではないか。（中村委員）
- ・ 地域が重要である。この場所が信濃川と阿賀野川によって堰き止められて、潟ができたという固有な歴史があり、そこで人々の行いや暮らしが生まれてきた。この文章自体は起承転結、良くまとまっているが、新潟市でなく他の市であっても同じキーワードが出てきてもおかしくない。新潟市から生まれた文化が重要だと考えれば、旧二葉中学校が、あの土地に



建っている歴史的背景や意味を文章化されたほうが、より新潟らしくなるだろう。それを市民が作っていくのだという内容の理念につながっていくのが重要。

(丹治委員)

→ いままでの検討の中でも、文化はどうあるべきか議論されてきたが、そのような内容を含めた文章にする方が良いのではないか。

(中村委員)

→ ご意見を参考に検討し、盛り込んでいきたい。

(枝並地域教育推進課長補佐)

→ 地域性や文化についての前提のもとに、市民の支えによってこの施設が利用できるような考えを盛り込むと良いのではないか、というご指摘でしょうか。(佐々木 地域教育推進課長)

→ 福島委員の意見は、そのとおりであると思う。丹治委員は新潟市の文化の特色、例えば古町とか、新潟の自然の良さなど、そのような中身的な部分と支えられている部分をお二人からご意見を頂いた。(中村委員)

・ 基本理念がどこまで重要かは分からないが、この文章のうち新潟市という文字を隠しても新潟だとわかる理念にすべき。(逸見委員)

→ 各個別の委員会の中でも、新潟文化の良さの意見は沢山出ていた。理念と新潟市の持つルーツを兼ね合わせていただくと良いのではないか。(中村委員)

→ 理念と機能や役割、具体的なソフトをセットにして考えていかなければならないが、どこまで実現可能なものなのか見通しがないなかで、詳しい事が描ききれないのが実情。

(佐々木 地域教育推進課長)

→ 委員からは新潟市の良さについて、多くの意見が出されていたので、可能な限り、盛り込んでいただきたい。(中村委員)

・ “文化芸術は「心豊かな生活」を実現するうえで不可欠なもの”と言い切っているが、文化芸術が、いかに子どもたちの成長に大事なものなのか、冒頭からの文章を拝見していても分かりにくく、国際青少年センター機能については市民の理解が得られると思うが、芸術創造ファクトリー機能部分に関しては、なぜ不可欠なのかを分かりやすく市民に伝えないと理解が得られないのではないか。私も芸術は非常に重要な事と考えているが、


新潟に住んでいるからこそ郷土愛が感じられたり、色彩感覚にしても新潟市に住んでいるから感じられるものなど、芸術を通じて得られる新潟の良さ、多様な視点、感性の深まりなど、そのような表現をこのビジョンに盛り込まないと難しいだろう。（菊野委員）

- そのギャップを埋めるものはなにか。感性であるとか郷土愛とか色々な視点で表現すべきではないか。（中村委員）
- そのような内容については、“2背景の（2）文化芸術が有する創造性を活かしたまちづくり”で記載している。（中野文化政策課長）
- “文化芸術が有する創造性”という言葉が多用されているが、市民には分かりづらく理解が得られないのではないか。個人的には、文章を読んで“創造性”が大事だと感じられない。（菊野委員）
- 基本理念の中にも、説明ではないが市民にわかりやすい言葉を入れたほうが良い。（中野文化政策課長）
- 創造性という言葉でまとめてしまうのではなく、感性とか新潟の良さを言葉として入れたほうが良いのではないか。ビジョンの部分に比べ、文章の下部分は希薄でアンバランスな印象を受ける。（中村委員）
- “文化芸術は「心豊かな生活」を実現するうえで不可欠なもの”のところで心豊かな生活を実現するうえで文化芸術が不可欠と言われると疑問が残る。（菊野委員）

## 《全体的なつくり》のご意見

・最初ににいがた未来ビジョンがあり、ファシリティマネジメントの考え方あって、このような施設をつくりますとあり、時系列にはその通りだと思いが、どこにも冒頭に掲げられているファシリティマネジメントの内容がかかれていない。にいがた未来ビジョンの子どもの政策、文化の政策があって、その結果、このようなものをつくっていききたい、その実現には新しいものでつくるのか、ファシリティマネジメントの考え方を取り入れて旧二葉中を利用してつくるのかという流れが全体的なつくりとしての私の考え方である重要な部分の視点の順番が逆転しているような印象を受ける。（長井委員）

- トップダウン的に書かれており、その逆が良いということか。（中村委員）

- 
- 今回、国際青少年センター、芸術創造ファクトリーというものをつくるのだが、なぜつくるのかが後からきており、一番最初にファシリティマネジメントがあり、旧二葉中を利活用したいから、この施設をつくる印象を受ける文章になっている。その為、必然性が感じられない。(長井委員)
  - 全体の中で新潟市では、こういう方針で、その中で位置づけられていますという内容になっていると思う。(中村委員)
  - 同様な印象を受けました。青少年センターがあり、子どもを育成させる芸術が必要なので芸術創造ファクトリーと一緒にした感じられる。逆に芸術創造ファクトリーからは、芸術の分で受け入れて部子どもが刺激を受けるといような利点がこの方針から見えてこない。(池主委員)

・初期の頃に議論された、創造ファクトリーの目指すもの、例えば無名のアーティストを育てる、また子どもとの接点を持つような内容が無くなっていないか。(長浜委員)

- 分かりやすく書くということは大事だと思うが、時系列で上からのトップダウン的に決まって書かれている利活用という話は、行政的には良くわかるが、事務的な無味乾燥な印象を受け理念が伝わりにくい。(中村委員)

・背景やはじめの部分をもう少し整理、手直しが必要ではないか。創造ファクトリーが目指す一番大事なところはどこなのかを明確にすべき。

(長浜委員)

・芸術ファクトリー部分が希薄になっている印象。どこまで書き込めるかで伝わり方が変わるだろう。(中村委員)

・運営に関してですが、ディレクターが中心になって、どのような施設運営をしていくかを書き込む事によって方向性を決めてしまうので、どこまで書き込むべきかだと思う。(長井委員)

- 具体的に書く事によって、方向性を制約してしまうので広がりを持たせるべき。菊野委員のおっしゃっている、目指そうとしていること、どのような力をつけようとしているのかを取り入れる文言であれば、縛りはないのではないかと。(中村委員)

・従来ある文化芸術ではなく、新しいものを皆で議論した。現代という言葉のもつ意味を皆さんで考えてきた。第二段落の部分に”その時代に応じて新しいものを取り入れ”あり、この部分を磨きあげていくことに現代性があると思うので、ここを掘り下げてはどうか。(福島委員)

→ 芸術のもつ力のようなものを記載してはどうか。(中村委員)

・長井委員の発言のとおり、ここで方向性を決める文言を入れると縛りが多くなると思う。そうではなく地域性であったり市民力を全面に出すことにより、それをベースとして、作家なりアーティストなり、あらゆる人たちが共に作り上げるという方向性が良い。例えば若い作家、行政としても、そのコンパスの針が「新潟市」もしくは「市民」というキーワードをもとにつくる、そこから何か生まれるというベースを最小限つくらないとオリジナリティが生まれない。そのような事を編集するのがディレクターの役目。

(丹治委員)

→ 新潟市の地域性や市民、個性など、内容を加えていきたい。

(中野 文化政策課長)

・市民の理解を得るために、このような長い文章で説明する必要があるのか。短いコピーのようなものにならないか。(逸見委員)

→ 短いものでも市民の理解が得られればそれでよいと思う。

(中野 文化政策課長)

→ 来年、東京の渋谷区で「渋谷のラジオ」、が開局するという報道があった。そのキャッチコピーは「ダイバーシティ、シブヤシティ」、で渋谷の多様性に注目し、渋谷を愛し、盛り上げていこうという理念を掲げてスタートしている。このコピーが全てを含んでいる。このラジオ局の代表が箭内(やない)氏、でタワーレコードの「NO MUSIC NO LIFE.」作った方。漠然とした簡単なコピーが分かりやすい。今回の施設では、理念をしっかりと書き、説明する必要があるのか。(逸見委員)

→ 量より質であるので短くても良いのではないか。(中村委員)

→ 太枠部分の理念だけでは市民の理解が得ることは難しく、説明が必要と判断している。(中野 文化政策課長)



#### 《4 施設の役割 5 施設機能》に対するご意見

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想レイアウト図 資料2

- ・「複合機能含む」と「複合機能」の表現が分かりにくのではないかと。

(中村委員)

→ 資料2のレイアウト図を見て頂きたい。黄色部分が複合機能となっており、青少年と芸術がどちらも使える場所として設定している。1) 宿泊・研修機能を例にとると、宿泊施設の他に1階のカフェ・食堂も含まれることから、複合機能の中にも宿泊・研修機能があるという場合に「複合機能含む」と表記している。(3) 国際交流機能が「複合機能」と表記しているのは、和室やワークショップ室を考慮しており、単体の水色の部分は国際交流機能はないということで「複合機能」だけの表現になっている。

(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・4 施設の役割の順番ですが(2) 国際青少年センターは? → (3) 芸術創造ファクトリーは? → (1) の順番の方が分かりやすいのではないかと。

(長井委員)

→ そのように修正する。(中野 文化政策課長)

#### 《6 施設内容 施設整備計画案》に対するご意見

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想レイアウト図 資料2


- ・レイアウト図の説明。

前回の委員会において意見として出されていた、子どもたちの危機安全管理と利用のし易さという観点から、1・2階に複合機能と芸術創造ファクトリー機能を、3・4階に宿泊施設のある国際青少年センター機能を設けた案として、レイアウトの変更を行った。(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・畳の部屋の使い勝手が良いため、談話室、和室の提案が良い。

大畑少年センターのカーペット敷の部屋の利用が多く、様々な方が利用できる。(福島委員)

- ・場所によつての記載内容に差があるので整理が必要。例えば、宿泊室に洗面化粧台が設置されている、夕日が眺望できるなど、構想段階では記載しなくても良いのではないか。（長浜委員）
- ・音楽室（体験活動支援機能） 「演奏などの支援」程度で良いのでは。記載しすぎると文句を言う人が増えるのでないか。最小限の記載の方が利用の自由度が高い。（逸見委員）
  - コミュニティスペースと多目的室の違いなど、必要最小限説明が必要と考えます。（佐々木 地域教育推進課長）
  - 基本構想ですので詳細まで記載しない方が、意見を誘導しないパブリックコメントを得ることができると考えます。それぞれの部屋の内容も表現を揃えるようにする。（鈴木 文化政策課長補佐）
  - 体育館の部分では体験活動機能の記載はあるが、創造活動機能部分の記載がないので、機能のレベルで表現を揃えてはどうか。（中村委員）
- ・避難所の記載は委員会で決定できることではないので、取った方がいいのではないか。書くのであれば、ありきではなく可能性の表現が良いと思う。（長浜委員）
- ・(3) 「国際交流機能」という言葉もあり (6) 交流機能の「交流機能」が分りにくい。（長浜委員）
- ・市民がこの建物にどのように関わるのか。  
要素として宿泊する子どもたち、アーティスト、それを支援する方の顔は見えるが、市民が関わる場所、時間のイメージがわかりにくい。  
市民が関わり、間口を広くするイメージが伝わる文言が必要ではないか。  
耐震的には問題がない建物だと思うので、大きな災害が発生した時に限り避難所として開放するのであれば記載は悪くないと思う。（丹治委員）
  - 記載するのであれば、責任が持てるのかという議論が必要。  
そのような意味で記載しない方がよいと考えている。（長浜委員）
  - ワークショップを開催する時には、市民の方が交流できる。（中野 文化政策課長）
  - 避難所の記載は検討する。（枝並 地域教育推進課長補佐）

- 
- ・全ての宿泊室は8人の2段ベッドだが、用途やお客さまによって宿泊のタイプが選べるのがよいのではないか。海外からの宿泊者は和室を選ぶかもしれない。（齊藤委員）
  - ・日本古来の和室の利用の仕方、その文化がなくなりつつある。  
ベッドだとそれ以外の利用ができない、一部（音楽室前、調理室前）を和室に変えるのは賛成である。（福島委員）
    - 一和室で布団を敷きつめれば、6名は泊まれると思う。  
（町田 本間総合建築）
    - アグリパークでは、収容人員が90名を切っており、一学年を収容するには規模が小さいとのご意見をいただいている。大規模校は難しいが、7～8割程度の学校の一学年が泊まることを網羅する場合、120名程度（2つの学校の一学年を想定）の収容人員が必要である。収容人員が減ると一学年が宿泊できない、もしくは一つの学校しか泊まれない可能性もあり、設計者と相談して基本計画に反映させたい。（枝並 地域教育推進課長補佐）
    - アグリパークも見学した際、収容人員を増やさなければ泊まれないとの意見もいただいた。大人数を収容するには、この程度必要と考える。畳の良さ、布団の良さも認識しており、談話室を和室にしている。本施設はホテルと違い自分達で床の始末、片付けを行う。アグリパークは掃除の方が入り点検を行うが、その人員を本施設で確保できるかも検討材料の一つであり、その選択の中で今回の提案となっている。（佐々木 地域教育推進課長）
  - ・施設内容のなかに障がいのある方も利用できるような、ユニバーサルデザインガイドラインに伴う部屋のデザインが必要。（丹治委員）
  - ・屋外部分に炊事所と避難所とあるが、ご飯を食べた後に思い出に残るようなイベントがあると良いのではないか。例えば校舎の壁面アート等、印象に残るものも必要であれば記載してはどうか。（逸見委員）
    - 現在は検討していない。あえてここには書かなくても、実際、投射などの利用は可能だと思う。（中野 文化政策課長）
    - ラ・フォル・ジュルネで壁面に投影したようなものか。  
（福島委員）
    - プロジェクション・マッピングは素晴らしいが費用がかかりすぎる。青少年がスマートフォン持つのが当たり前になっているなかで

例えば、将来の夢を打ち込むと全員の夢が校舎の壁面に投影される  
などが、考えらえる。(逸見委員)

→ 現実にはガラス面の一部を壁にする必要があるのではないか。

(長浜委員)

→ その心配はない。(逸見委員)

→ その場合はソフトだけの問題だと思う。(長浜委員)

## (2) 施設レイアウト (案) について

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想レイアウト図 資料2

： 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

- ・国際交流の部分でのアイデアが不足している。皆様のアイデアを頂きたい。(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・現在の大畑少年センターとして使い方として、教育委員会の行っている姉妹都市の子どもたちとの交流事業が、新しい施設の交流の場になると思う。その他に今年は、東アジア文化都市として、新潟市、青島、清州と交流しているが、来年以降も続くのであれば、新しい青少年センターを活用したいと思っている。また、学校間の交流以外にも、数は少ないかもしれないが、海外のサークル、例えばサッカーや囲碁をしている海外の子どもたちと観光を兼ねていると思うが、一定のルールのもと、新潟の子どもたちの交流を兼ねて宿泊できるのではないか。(近藤委員)
- ・海外からの交流は他の政令指定都市に比べると多くはなく、新潟市では4800名程度。  
しかし色々な国が来ているので、遊びであるとか水墨画とか、新潟市内に住んでいる外国籍の方を講師にむかえて、この場で教えていただけると良いと思う。さらに、市内の高校にいる外国籍の留学生との学校を超えた交流。例えば夏休みとかに市内の高校生と国際交流の促進ができると良いと考える。また留学生が講師となって、国際理解を促進するような事業があればなお良い。新潟市の学生も多文化を理解することになるし、留学生にとっても、新潟での社会参加に寄与するのではないか。(近藤委員)
- ・あらゆる料理の分野で、世界で賞を取っているような方が新潟にもいるので講師として招き、お話を聞いたり実際に調理を行うことなどの交流をはかることで、子どもたちの将来やりたいことが広がっていくのではないか。(近藤委員)

→ 利用者の対象をどこまでにするか。

来館した外国の方に新潟の文化をどう伝え、楽しんで頂くかという視点と、外国の方から新潟市民に他国の文化をどのように伝えて頂くかという両方の視点がある。（中村委員）

- ・学校支援課で国際交流事業を行っており、外国への派遣と受け入れを行っている。

もし、この場所が使用できるのであれば、受け入れた時に宿泊だけでなく海外ではホストファミリーが文化を紹介したり皆で活動することが一般的であるので、そのような会場としても利用できるのではないかと。

さらに、派遣に行く子どもたちもここで研修が受けられるのではないかと。また、イングリッシュセミナーをALTと中学生対象に行っているが本施設には様々な部屋が用意されているので、外国籍の方から料理や言葉を習うことや、体育館もあるのでスポーツを体験したり、日本からは書道、茶道などの文化を伝えることができる。（齊藤委員）

- ・カフェ食堂のスタッフを外国籍の方にするなど考えらえる。（逸見委員）

→ ソフトを考えるうえで参考になった。例えば日本の文化を伝えるあたりで、地域の方々にお茶を教えるということも可能なのではないかと思います。（枝並 地域教育推進課長補佐）

## (1) 基本構想（素案）について

### 《7 運営手法 8 整備スケジュール》に対するご意見

- ・整備手法と運営手法を分ける必要はないのではないかと。

ディレクターの選任についても、ここまで断定してよいのか。


指定管理者についても流動的なので、変更可能な表現がよいのではないかと。

（長浜委員）

→ 指定管理も含めて担っていただける業者を選定することにとどめる。館長がディレクターを兼ねれば良いという意見もありましたが、このような表現にとどめておきたい。最終的にはトータルコーディネートできる人を配置したいと考えている。（鈴木 文化政策課長補佐）

- ディレクターを最初に選任して、その後に指定管理を決めるという順番に決まったのか。(中村委員)
- 基本計画の段階では、そのステップを提示したい。  
(鈴木 文化政策課長補佐)

- ・整備手法と運営手法を分けなくとも良いのではないか。  
大前提としては指定管理、運営や施設整備においてはディレクターの選任し、意見を求めるなどについては今後検討する、という書き方もあるのではないか。(長井委員)
  - 表現に関しては、パブリックコメント前に精査させていただく。  
(鈴木 文化政策課長補佐)
- ・ここにアーティストが泊まらないのであれば、レジデンスという言葉を使わない方がわかりやすい。
- ・浴室、脱衣所は国際青少年センター機能となっており、宿泊者専用とあるので、クリエイターは使えない前提になっている。例えば体育館でレクリエーションがあった場合、使えた方が良いと考えますので、ご議論願いたい。
- ・水土アーカイブとギャラリーは本来別のもので、アーカイブとは図書館で言えば閲覧室ではなく書庫、美術館で言えばギャラリーではなく収蔵庫劇場で言えば舞台ではなく練習場にあたるもの、これは本来きちんとあるべき。ギャラリーはあっても良いがアーカイブは付帯的な機能である。
- ・コミュニティスペースに“芸術作品を展示するギャラリーと一体の憩いの場とする”とあり、これが新潟を代表する機能と思うので記載してあって良い。
- ・体育館の部分は複合機能で広いスペースがありますので、遮光や遮音の機能が合ったほうがよい。またデモンストレーション行為もできる施設にする配慮が必要と思う。
- ・サインについて、本来は他言語ということになるが、クリエイティブな場所だということを考慮すれば、ピクトグラムなどを活用して様々な言語の方にもわかるようなサインを設置することも、あらかじめ盛り込んでどうか。(太下アドバイザー)



・”レジデンシャル（滞在型創作活動）を可能とする”とあるが、どこか宿泊ができる場所を考えてるのか。仮に宿泊室が空いている場合には利用できるのか。（丹治委員）

→ 青少年部門と分けることを基本として、作家の宿泊を認めない方針とした。（中野 文化政策課長）

→ 搬出入口を24時間出入り可能とし、安心安全ということから分けることにするという考え方だと思う。

（長浜委員）

→ 宿泊室が満室の場合は仕方がないが、空室の場合には利用できるようにしてほしい。空室時に利用することに不利益があるのか。

（丹治委員）

→ 宿泊可能な条件設定が不確定であるので、原則としては、使用できないとするべきだと思う。（長浜委員）

→ 水土の期間のみということであれば可能と思うが、空いている時に無制限に生活される方がリスクを伴うではないか。そのリスク管理がどこまでできるかが課題。長期滞在が問題であるので、短期であれば作家活動としては大事だろう。（中村委員）


→ ギャラリーの隣にある休憩室で仮眠は可能。住むという場合には建物の外でお願いしたい。（中野 文化政策課長）

→ アーティストは時間厳守など、守ってもらえるのか（長井委員）

→ 海外から来て長期滞在して制作する事のメリットは大きい。市内のホテルに泊まるということになれば、交通の事も考慮しなければならない。空いている時にはルールは守っての利用可能で良いのではないか。（丹治委員）

→ 海外のアーティストは招聘するのが基本でしょう。この施設で子どもたちに色々と教えてあげてください、但し宿泊は街中でというのはどうか。他の国のアーティストを招聘するのであれば、宿泊も整える必要があるだろう。（逸見委員）

→ 基本的に招聘するのであれば、その内容によって、ここに宿泊するのか、ホテルが良いのかとなると思うが、この一般的な利用はそのようなイメージではないのではないか。住まいはご自身でというのが基本。ここでは、100%ではないが、基本的な考え方としては分けるべきだと思う。（長浜委員）

- 
- 青少年センター機能側では安心安全が優先され、芸術創造ファクトリー側では作家の自由な創作の場の提供というのがあると思うので、この施設だけでなく、他の施設も組合せながら検討する必要があると思う。（中村委員）
  - 事務局としても悩んでいるところである。当日どうしても泊まりたいというアーティストには休憩室を利用。長期宿泊に関しては検討させて欲しい。（中野 文化政策課長）

### 3. 連絡

第5回委員会の日程については2月上旬を検討している。日程調整表を年明けに発送する。

以上



# M 06

## 策定検討委員会議事録（第5回）

- 日時 : 平成28年2月16日（火） 10:00～12:00  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 1号棟 2階 教育会議室1
- 出席者 委員 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）  
福島 實（新潟市子ども会連絡協議会 会長）  
近藤 淳一（新潟国際友好会館 館長）  
齊藤 裕子（新潟市教育委員会学校支援課 副参事）  
長浜 裕子（新潟市教育委員会 教育次長）  
丹治 嘉彦（新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）  
逸見 覚（(株)けんとう放送 取締役 放送局長）  
池主 透子（TC-Wave 代表）  
長井 亮一（新潟市文化スポーツ部 部長）
- 欠席者 委員 : 菊野 麻子（フリーアナウンサー）
- 出席者 事務局 : 佐々木克己（教育委員会地域教育推進課 課長）  
枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）  
増田 徹（教育委員会地域教育推進課 副主査）  
中野 力（文化スポーツ部文化政策課 課長）  
鈴木 稔直（文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）  
黒川 正憲（文化スポーツ部文化政策課 主査）  
諸橋 真樹（建築部公共建築第2課 課長補佐）  
宮崎 嘉孝（建築部公共建築第2課 係長）  
須貝 允英（建築部公共建築第2課 副主査）  
阿部 康道（大畑少年センター 所長）  
半藤千枝子（大畑少年センター 事業担当）
- 出席者 策定支援 : 町田 誠（本間総合建築 取締役）  
全体進行 : 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）
- 傍聴者 : 0名

## ◆ 議事内容

### 1. 事務局挨拶

： 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

・8月からスタートした委員会は今回で5回目の開催となる。

青少年の国際交流、体験活動の提供、また文化芸術の拠点となる新潟市初の複合施設について、その理念や規模、また目指すべきものや作りたいものを検討して、ようやく基本構想という形になることができた。

当初の予定よりは遅れたが、皆様方からじっくりと時間をかけて検討いただいた結果より良いものができたと思う。今後はこの構想をより具体化した計画へスイッチしていく段階に入っていく。利用する方のことも想像しながら計画を作っていくことが大事になるだろう。

これまでと同様に熱心に、ご協力いただきたい。

### 2. 議事 ※進行は中村委員長

#### (1) 基本構想（案）に対するパブリックコメント実施結果について

《資料》（仮称）国際青少年センター・（仮称）芸術創造ファクトリー基本構想（案）に対する意見募集結果について（案） 資料1-1

（仮称）国際青少年センター・（仮称）芸術創造ファクトリー基本想（案）に対するパブリックコメント意見概要及び市の考え方（案） 資料1-2

《資料》（仮称）国際青少年センター・（仮称）芸術ファクトリー基本構想（案）資料2

#### ・資料1-1を説明

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・ 募集期間1か月の間に2団体から14件の質問が提出された。
- ・ 今後の公表場所としては下記を予定している。

新潟市ホームページ

市役所（市政情報室、地域教育推進課）

各区役所地域課

各出張所

中央図書館

・資料1-2を説明

【全体】にかかわるご意見を説明。(No.1～No.4)

： 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

内容に関しては資料を参照。

→ 基本構想の修正はなしとする。

【(仮称)芸術創造ファクトリー】にかかわるご意見を説明。

(No.5～No.13)

： 鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)

内容に関しては資料を参照。

→ 下記、項目のみ1点のみ基本構想を修正する。

・ No.9 P9

意見 :新潟市美術館と至近距離にあり、連動した企画展を  
少なくとも年1回以上は開催すべき。

市の考え方 :新潟市美術館を含め市内の文化施設等との連携を図  
り運営する。

修正箇所 :P9の「4 施設の役割」において、市内文化施設等  
との連携を加えます。

- ・ 内容から芸術創造ファクトリーの期待が大きいことが伺える。

(中村委員)

- ・ パブリックコメントを提出された方はどのような方々か。(福島委員)

→ 旧二葉中学校周辺自治会と新潟で芸術文化活動を行っている団体  
の2団体。(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・ 個人で提出された方はいらっしゃらなかったのか。(中村委員)

→ 個人的な方はいらっしゃらなかった。

(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・ それでは、基本構想のP9の赤字部分を修正して完成とします。

(中村委員)

## (2) 基本構想（案）について

《資料》（仮称）基本計画目次（案） 資料3

旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画 整備方針（案）資料4

旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画 施設整備基本計画（案）資料5

### ・資料3を説明

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・《基本計画目次》（案）を説明  
内容に関しては資料を参照。
- ・予算が確定していないため、いただいたご意見が全て叶う訳ではない。構想段階ということでご了承いただきたい。

### ・資料4を説明


： 町田 誠（本間総合建築 取締役）

- ・旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画 整備方針（案）を説明内容に関しては資料を参照。
- ・今後、基本設計に向けてどのような方針で建築の整備を進めていくのかという内容となっている。

### ・資料5を説明

： 町田 誠（本間総合建築 取締役）

- ・旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画 施設整備基本計画（案）を説明。内容に関しては資料を参照。
- ・照明のLED化、また、啓発として太陽光発電、風力発電等、自然エネルギーの活用を導入する予定はあるのか。（長井委員）
  - 方針ではエコロジーという言葉もあるので、LED化や太陽光発電などの設置については、環境省の助成など、国からの補助を念頭に入れて検討する。（鈴木 文化政策課長補佐）
- ・屋上の活用はどのようになっているのか。（長井委員）
  - 現在の校舎は屋上まで階段が設置されておらず、ハッチのみとなっている。階段があれば、エレベーターを屋上まで上げて活用することも可能だが、現時点では難しいと考える。  
（本間総合建築 町田）



・使われ方や改修方法の進め方としては良いと思う。考え方としては地域にどのように開かれるかということが重要。

例えば、地域の方と一緒に花壇（朝顔やひまわり）を作る場所があるとかあるいは作物を育てるなど、内部の人だけではなく他の人も関わりながら変化を及ぼすような余白が必要だろう。それにより地域のもの、自分たちのものという意識が出てくると思う。また、1階の「誰でもトイレ」は問題はないと思うが、各階のトイレの扉が内側へ開くようになっており、バリアフリーの観点から言えば、内側で人が倒れた場合に救助ができないので、外開きに変更するべきだろう。

工房・ギャラリーとアーカイブギャラリーは、天井にラインダクトを設けてスポット的に照明が配置できるような当て方が、展示スペースの照明としては機能するのではないか。それと同時に天井のレールから作品を吊るような展示方法では、ワイヤーが作品に干渉するので、厚手の壁にビスで留められるような設えが良い。現状復旧も容易と思う。

防犯上、誰かが侵入した時の対応など、セキュリティはどのように考えているのか。（丹治委員）

→ 地元の方達にも自分たちの施設であるということ意識していただくために、そのようなことは重要であると考えて。今後、検討していく。（枝並 地域教育推進長補佐）

→ トイレは和式なのか洋式なのか。洋式に慣れていない子どもたちもいる。（中村委員）

・LANの設備はどこに配置されているのか。インターネットを使って利用される方もいるし、地域の方が立ち寄ることもあるので、1階あたりに配置という話があったかと思う。

お茶は総合芸術であるので、2階の和室に床の間を最低1か所、できれば2か所設けて欲しい。また、朝一斉に洗面を終えるといった場合、数が不足と思う。

また体育館の2階部分は残るのか。（福島委員）

→ 体育館の2階部分は改修しない部分であるので図面に記載はありません。（本間総合建築 町田）

→ トイレのドアは、内開きの場合、中で人が倒れた時に救出できないため、改修する必要があると考える。

改修しない部分に関しては、旧二葉中の図面をそのまま写しきないであり、現状と相違する可能性がある。

例えば、トイレ内のブースの1か所を車椅子対応に改修、また一部の便器が洋式に改修されている等。和式を見たことがないという児童もあり、全て洋式に変えるのが理想だが、温水洗浄便座の設置の有無も含め、今後予算内で検討を進めた方が良い。


(本間総合建築 町田)

- 子どもたちだけではなく、来賓の方々も利用されるだろう。照明や床の間に関してはどうか。(中村委員)
- 照明は計画可能。セキュリティとLANに関しては、まだ方針が決定していないと思う。和室に床の間を設置することに関しては、銘木を入れるかというグレードの検討は必要だが、問題はない。(本間総合建築 町田)
- 屋外炊事場のテーブルも宿泊人員の半分しかない。作る人は半分でも食べる時に、2回に分けて食べるというのは使いづらいと思う。洗面の数と併せてどのように考えているのか。]  
(中村委員)
- 宿泊室内に洗面を設けているが、それでは不足ということか。  
(佐々木 地域教育推進長)
- 8人部屋の宿泊室に1か所だが洗面器を設置している。混雑するのは一時であるので、時間を調整して使用してはどうか。  
(本間総合建築 町田)
- 廊下に設置されている水呑場も利用できるのではないか。  
(中村委員)
- 給湯を設けるかは今後の検討だが、お湯が出せれば利用可能と思う。(本間総合建築 町田)
- 宿泊室内の洗面は見落としていたので、数は足りると思う。  
(福島委員)
- 屋外炊事場のテーブルについてはどうか。(中村委員)
- テーブルに関しては移動式か、コンクリートの固定式かなど、仕様も決定しておらず、予算によってはブルーシートを敷いて食べることも想定される。図面には仮で固定式を記載している。  
(枝並 地域教育推進長補佐)

・1階のギャラリーに付随する休憩室にトイレは設置されないのか。

(長浜委員)

- 図面には落としていないが設置は可能。(本間総合建築 町田)

- 
- ・ 24時間対応エリアであるので、セキュリティという観点からもトイレを設置しておいた方が良いのではないかと。階段は避難上、区画できないうすれば、休憩室と芸術事務室の間の廊下あたりで区画が必要だろう。

(長浜委員)

- 区画24時間使用を想定しているので、夜間には青少年センターとはできるように考えていく。(中野 文化政策長)

- ・ 今までショップに関して議論されてこなかったが、どのようなイメージか。(長浜委員)

- 工房やギャラリーで製作されたものや作家の作品販売も検討していきたい。水と土の芸術祭時には、カフェ・食堂に併設されていたが、場所に関しては検討させていただく。

(中野文化政策長)

- お金を扱うので目が届く場所にあるということだと思う。

(中村委員)

- 説明では作家の作品を扱うとのことだが、美術館のように常に同じものを売っているイメージなのか。オリジナル商品売る予定はあるのか。(池主委員)

- 国内の類似施設でいえば、コスト的に一般的なギャラリーを借りて販売できない作家さんの作品販売等を検討している。

半分が固定、半分が常時入れ替えるイメージではないか。

オリジナルというと、ここで製作された作品になると思うが、内容に関しては運営を委託する業者やディレクターとの調整が必要

だろう。(鈴木 文化政策課長補佐)

- ・ 避難経路に関して教えて欲しい。旧二葉中の全校生徒が昇降口から降りたことを考えれば問題はないと思うが、ショップがあることで狭くならないか。通常、3つくらいの避難経路を考える。火が出そうなところ、例えば厨房、工房、浴室など、仮に厨房から火が出たとすると西側の階段しか使用できない。(福島委員)

- ・ 厨房が玄関の脇にあり、出火元になった場合、逃げられないのではないかと。(中村委員)

- 出入口だけで考えた場合、昇降口の外、工房・ギャラリーに挟まれた西側の搬出入口も廊下幅があり使用できる。

(鈴木 文化政策課長補佐)

- ・大きな資源である海の活動から上がってくる動線が欲しいという意見が、当初の委員会でも出されていたが、それに付随して足を洗える場所が欲しいという意見もあったと思う。（中村委員）

→ 浴室を利用するか、体育館の東側に利用可能な水場がある。

また、体育館の男女更衣室も利用できるのではないかと。

（枝並 地域教育推進長補佐）

- ・エントランスホールやカフェ・食堂の壁を全て無くす必要はないと思うが、事務室は来館者が気軽に話しかけたり、相談できたりできるような開口を設けてエントランスホールや廊下との関係を考えて欲しい。また、大畑少年センターの廊下に掲示板があつて来場者に情報提供を行っ

ている。サイン計画と関係すると思うが、来場者や宿泊者へ向けた情報提供の場を設けてはどうか。（近藤委員）

→ 来館者等の気配を感じることができる事務室は賛同できる。

情報提供については、その日の1日の予定を既存の黒板に事務の方が手書きで記載するとか、現在進行形で自分たちが作っているという生きたサイン計画を検討して欲しい。（丹治委員）

→ 事務室については、見えることによるセキュリティもあり、顔わのかる関係づくりから透明感のある配慮が必要だろう。

黒板の使い方も地元の方が学校の名残として判ることは良いと思うが、場所に関しては検討が必要と思う。

（佐々木 地域教育推進長）


- ・冷暖房を設置するなかで、コミュニティスペースや水土アーカイブ、多目的スペースなど、オープンスペースのランニングコストが気になる。

（長浜委員）

→ 例えば事務室をオープンにした場合、断熱の悪い昇降口と一体になる。冷暖房をしっかりと効かせる場合には、空調設備も大きな容量の機器を入れることになり、ランニングコストは上がる傾向になる。解決方法としては、可動式の建具を設置する等もあるが、イニシャルコストがかかることから、壁を可能な限り残すことも併せて検討が必要。（本間総合建築 町田）

→ 事務室ですが、オープンスペースというよりは腰から上の部分をガラス張りにしてはどうか。学校に勤めた経験からコンクリートの壁をガラスに変えるだけで、相当雰囲気が変わることを実感している。（福島委員）



- 
- ・ハードとしては良いと思う。このハードをどのようにソフトに活かしていくのか。（逸見委員）
    - 色々な用途に使える施設であれば、ありきたりの使い方ではなく、ソフトも工夫のしようがあると思う。（中村委員）
    - 資料4の整備方針にある、芸術活動や教育プログラムの一貫とした什器製作、壁面塗装等は、地域住民の方や学生と一緒にを行うとで、自分たちが一緒に作ったという施設になるのではないか。（池主委員）
    - 丹治委員のおしゃった、畑とか花壇を地域住民と作り親近感を得るということにも通じる。（中村委員）
    - 丹治先生が教えていらしゃる斬新な大学生に来ていただいているかどうか。（福島委員）
    - 前向きに検討します。（丹治委員）
  
  - ・イメージが具体的になってきて、これからはなおさら工夫しながら良いものができていくと思う。今後は、PRが大事だろう。（齊藤委員）

### 3. 連絡

第6回委員会の日程については3月下旬を検討している。

以上

# M07

## 策定検討委員会議事録（第6回）

- 日時 : 平成28年3月28日（月） 14:00～15:15  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 6号棟 2階 教育会議室1
- 出席者 委員 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）  
福島 實（新潟市子ども会連絡協議会 会長）  
近藤 淳一（新潟国際友好会館 館長）  
齊藤 裕子（新潟市教育委員会学校支援課 副参事）  
長浜 裕子（新潟市教育委員会 教育次長）  
丹治 嘉彦（新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）  
逸見 覚（(株)けんとう放送 取締役 放送局長）  
池主 透子（TC-Wave 代表）  
菊野 麻子（フリーアナウンサー）  
長井 亮一（新潟市文化スポーツ部 部長）
- 出席者 事務局 : 佐々木克己（教育委員会地域教育推進課 課長）  
枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）  
増田 徹（教育委員会地域教育推進課 副主査）  
中野 力（文化スポーツ部文化政策課 課長）  
鈴木 稔直（文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）  
黒川 正憲（文化スポーツ部文化政策課 主査）  
宮崎 嘉孝（建築部公共建築第2課 係長）  
島田 敦（建築部公共建築第2課 主査）
- 出席者 策定支援 : 町田 誠（本間総合建築 取締役）
- 全体進行 : 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）
- 傍聴者 : 0名

## ◆ 議事内容

### 1. 地域教育推進課長挨拶

： 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・今回で6回を迎えるこの検討会は今日が最後となる予定である。

当初、新潟市初の青少年の国際交流、文化芸術機能を有する複合施設をどのように作るのかということに関して、合意イメージが持てなかったのも事実である。皆さま方から作りたいものは何なのか、魅力的な施設には何が必要なのか、そしてそれぞれが機能することで相乗効果を求めるためには、どのような施設が良いのかということについて、沢山ご意見を頂き基本構想という形になった。

前回は、その基本構想について最終的なご承認を頂きながら、さらに具体化する基本計画にシフトしたところである。その中でも施設として長い目で見た時に何が必要なのか、また利用者の目線から見て必要なものはないのか、という視点から沢山ご意見を頂いた。今日は頂いたご意見を整理し皆さま方にお示しして、ご意見を頂きたいと考えている。

来年度は、これを受けて基本設計、実施設計の方へ向かっていきたいと思っている。また検討委員会で頂いたご意見やこれから出来る基本計画に則っていくことで、新潟市としては、こんな素晴らしい施設ができるのだということを強くアピールできるものと私たちは考えている。

日は沢山ご意見を頂きますように、よろしく願いしたい。

### 2. 議事 ※進行は中村委員長

#### (1) 第5回 旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会 意見及び市の考え方

《資料》第5回 旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会

意見及び 市の考え方 資料1


《資料》（仮称）国際青少年ファクトリー （仮称）芸術創造ファクトリー基本計画（案）

08 整備方針

・資料1を説明

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・ 前回の第5回検討委員会では、今後の整備に当たり様々なご意見を頂いた。その頂いたご意見が基本計画のどこに反映しているのかを、これから説明したい。前回の委員会では、かなり細かいご意見を頂いたが、整備の予算はこれからこの基本計画をもとに設計し、その設計をもとに予算化されることになる。したがって基本計画は大きい意味での反映となってしまうが、その点についてはご了承いただきたい。ただし、これまで頂いたご意見はこれからの設計段階で検討、精査を行い対応していきたいと思う。今まで色々なご意見を頂きありがたく思う。
- ・ 事務局の考え方という中で、「芸術活動や教育プログラムとの連携を考慮した改修工事の内容を検討する」と「設計段階において精査し対応」の違いがわからない。何か意味合いがあるのか。方針ができているものがあれば、教えていただきたい。  
（池主委員）
  - プログラムの連携を考慮した改修工事はソフト・ハードの部分を考慮し施設全体として考えていかなければならないという意味。  
設計段階で精査したいものとしては、ギャラリーの仕様や和室がそなっているが、「ギャラリー」は細いもの、例えば展示物のピクチャーレールとかビス、また和室の床の間などは整備方針の中にはっきりと載せることができることなかったこともあり、設計段階において精査すると記載している。但し、施設内容に作品を展示するギャラリー、日本文化を学べる和室もあるので、その中に要望は記載されていると理解して欲しい。（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・ 設計段階で精査する主体はどこか。（中村委員）
  - 事務局と今後お願いする設計業者と基本計画をもとに検討していく予定である。（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・ 08整備方針 2.建築改修計画方針の最後に連携の部分が謳われており、連携も大事だが、まずは芸術と教育のそれぞれの特性に応じた設計をしつつ連携を行うという記載が良いのではないか。（長浜委員）
  - 基本計画（案）P09-10に機能施設内容が書かれており、それを網羅しての合わせた連携という表現でも良いと思う。  
（枝並 地域教育推進課長補佐）


- 
- ・08整備方針や資料1の中に検討という言葉があるが、検討した結果、財政面も含めて用されないということもあるだろうし、その検討手順をスケジュールを含めて、ご教示いただきたい。（丹治委員）
    - 今回、基本計画が策定されると、その後、基本設計、実施設計と移り、9月くらいには完成し、それをもとに予算要求をしていく予定である。また、今までに頂いたご意見は、予算内で優先順位を見ながら可能な限り細かいところまで反映していく予定である。  
（枝並 地域教育推進課長補佐）
  
  - ・設計において形が出来てくると、今まで出てきている意見以外の考え方が新たに出てくるのではないか。6月に青写真ができた内容でFIXとなると身動きができなくなる。それでは不自由であるので、可能な限り余白を残しつつゴールを迎えられると良いと思う。（丹治委員）
    - 確かに前回の委員会も図面を見てイメージのみで話していたところがある。（中村委員）
  
  - ・丹治委員のおっしゃっている余白というのは、資料1のNO14「ギャラリーの仕様」のようなイメージか、もしくは構造的なことか。（長浜委員）
    - 構造的なことは耐震やエレベーターの問題は解決しなければならないが例えば、合同で何か作っていくという場面とか場所に関しては、その決まった場所以外では使用不可ということではなく、柔軟に対応できる余剰価値を積み上げるシステムが欲しい。（丹治委員）
  
  - ・ここに書かれている検討というのは現実する方向で検討していただけたらと思うがフル装備で要求したとしても予算の都合でその9割しかつかないといった時に最終的なイメージとしては実現できないということはあると思う。  
そういった時に何を優先するのか。（長井委員）
    - 今まで頂いたご意見を元に事務局で考えさせて頂くしかないと感じている。但し委員の中からご意見をいただけるのであれば、ご相談したいと思うが、検討委員会が本年度で終了することから、それも難しいと思う。（枝並 地域教育推進課長補佐）

- 検討委員会はないが、委員の皆さまからご意見を頂いているので、基本設計の段階でも結果や経過の報告を各委員にフィードバックして頂きたい。（長井委員）
- 検討、結果、経過報告は行っていくので、よろしくお願ひしたい。  
（枝並 地域教育推進課長補佐）
- 検討が進めば具体像が見えてくる。物を作る時には優先順位を付けていかななくてはならないが、現時点では優先順位を付ける検討が十分ではない。ただし良いものを作ろうという志が終わらないように、検討内容報告させて頂く。（佐々木 地域教育推進課長）

・事務局で何か意見はあるか。（中村委員）

・施設の使い方の件で、靴の履き替えか土足のままで良いのかの、ご意見をお聞かせいただきたい。新潟県少年自然の家だと履き替える。また不特定多数の施設だと外履きが基本。（枝並 地域教育推進課長補佐）

- 青少年施設ということを前提に考えると、この施設は砂浜で遊ぶことが多いと考えられるのでサンダル履きになることが一般的だと思う。  
その場合は洗って干すという場所が必要だろう。  
新潟県少年自然の家の場合はそれが整備されていない。  
本施設の場合には洗う場所、干す場所が必要だろう。  
体育館で遊ぶ場合は上履きが必要だろうから、3階に上がるところで設置できると良い。予算がないからという理由でブルーシートではかっこ悪い。1階は大人なので土足で良いと思う。（福島委員）
- 1、2階はスリッパで良いと思う。水と土の芸術祭の時には、担当者がスリッパ担当者がスリッパを来客に渡すことで招き入れるということを示すことができた。また作品を保護するという観点からも大事と思う。  
（丹治委員）
- 不特定多数の方が出入りする施設では土足が多いと思う。（中村委員）
- 私も水と土の芸術祭を見ている限りは、下足を履き替えるのが良いと思う。学校内は滑るという印象があり、その意味でも履き替える方が良いのではないか。（長井委員）
- 海際にレストランが出来るという話もあり、海側からも入れると良いのではないか。（中村委員）

- 
- 選挙の時には履き替えが前提だったが、大変ということでシートを張って土足のままとまっているのが現状。また、個人的にはビニールスリッパを履きたくはない。（長浜委員）
  - 抗菌タイプ等、衛生面も考慮が必要だろう。（中村委員）
  - 個人的には靴を脱ぎたくはない。女性はストッキングを履いているとスリッパが脱げやすい。あくまでカフェ、食堂を利用する方は、土足でも良いのではないか。（池主委員）
  - 元々は教育施設であったということと、衛生面、メンテナンス、清掃や安全面からも私はスリッパを持参して履き替えるのが良いと思う。但し、子ども達の場合には安全面で疑問が残る。大畑少年センターの場合はどうか。（菊野委員）
  - 大畑少年センターは土足。雨天時の汚れ具合は悲鳴が上がる状態。旧二葉中の場合に同じ状況で2階、3階まで上がると考えると問題があると思う。（福島委員）
  - 大畑少年センターは雨天時、洗う場所はないのか。（菊野委員）
  - 小さな水道はあるが、玄関にマットを設置し汚れを持ち込まないように指導者が指導する。（福島委員）
  - カフェが土足の場合には汚れが持ち込まれるし、逆にそこで着脱しなければならないとなると利用者にとって不便になる。（中村委員）
  - 床がコンクリートであればそれ程汚れない。3階で履き替えるよりは1階で履き替えるのが現実的と思う。（福島委員）

・他に意見があれば、お願いいたします。（中村委員）

- ソフトコンテンツ検討は、スケジュール的には何時頃を想定しているのか。（逸見委員）
- 28年度を予定している。（枝並 地域教育推進課長補佐）

## (2)

《資料》 （仮称）国際青少年センター（仮称）芸術創造ファクトリー基本計画（案）

- ・本日、基本計画（案）をまとめさせて頂いたが、それ以外に参考資料という形で委員会議事録、パブリックコメント結果、先進事例を含めて納品予定。  
（本間総合建築 町田）

- ・ソフト的なものについて要望を幾つかお話したい。

国際交流も含めて綿密なプログラムを作っていく必要があるが大畑少年センターが行っている主催事業では不足だと思う。プログラムを作るにあたっては慣れた人間が必要でそのような組織を作って欲しいのが1点目。

プログラムを効果的に運営していくマンパワーが必要ということが2点目。

大畑少年センターは正規職員が一人もいないのが実情。非常勤の職員は頑張っているが、教員の中には社会教育主事のような資格を持った専門職が大勢いるので一人でも二人でも配置することを教育委員会に要望する。(福島委員)

- ・長期間にわたり検討を重ねてきた委員の皆様一言ずつ、感想等をお話し頂きたい。(中村委員)

→ このような委員会に携わるのは初めてである。施設に関わるのも初めてである。2年後には国際と名の付く建物、国際友好会館と国際青少年センターが近くにできるので連携を取りながら、事業が重ならないように、国際的な事業が一步一步進んで行けたら良いと思う。

(近藤委員)

→ 新潟県少年自然の家が建替えをする。この施設も沢山の方が訪れると良いと思う。教育委員会では、アグリパークにおいて体験するだけでなく、学習と繋げるということを推進している。アグリパークの活動の一部としてこの施設を利用する、また学習や国際交流の視点からも多くの方に利用して欲しい。(齊藤委員)


→ 目から鱗の意見も沢山頂いた。これらの意見をどのように取り入れていくのが事務局の仕事だと思う。(長浜委員)

→ 4月から部署が変わり最後まで見届けられないのが残念。

施設のオープン当初は一度は訪れて頂けると思うが、その後はソフトの中身で多くの方が利用する施設になると思う。国際青少年センターは既存の施設があるが芸術創造ファクトリーの方は全く新しい施設を作り出す中で、どのような内容を展開するのか、施設のあり方や方向性が決まってくることになるだろう。

ただ施設が先にできて、やりたいソフトができないなど縛られることがないことを期待する。国際青少年センターもどのようなソフトを打ち出してくれるのか、楽しみにしている。(長井委員)



- 
- これまでも新潟市内の文化施設とか図書館などに携わってきた。そこで感じることは、その建物を活用することによって新潟市がどのようなビジョンを抱きたいのか。市民にはどのように利用してもらいたいのか。また、その施設を運営する人にも利用者側のことも、きちんと理解した方にリーダーシップを取ってもらって進めていかないと作って終わりということになりかねない。

連携がこの施設から始まる。名ばかりにならないことを期待する。

(菊野委員)

- 青少年と芸術、さらに国際ということで、あちらを立てればこちらが立たず的な非常に難しい課題であった。難しいというのは可能性が非常にあるということだと思うので今後に期待したい。(池主委員)
- 青少年と芸術、国際という3つのキーワードからお話すると、旧水揚場に100mのストリートアートが、また新潟駅の万代口の床面に3Dトリックアートができたが、その利用者は外国の方か女子高生が多い。青少年と呼ばれる若い学生たちと外国の人たちが芸術を通して、ウェルカムto新潟に触れるなら良いと思うし、そのような形でこの施設の連携が取れると良いと感じた。
- また、ハードにソフトが縛られてしまって、行いたいソフトがハードの都合上できないということがないようにしなければならない。最先端のテクノロジーでは床からクジラが飛び出してくるような技術が出始めている。この施設ができる頃にはもっと身近になっていると思うし、床面のトリックアートもさらに技術が進化しているだろう。
- この施設が常に最先端の技術を取り入れた芸術ができる余白のある施設としてスタートして欲しい。(逸見委員)
- この場所が地域の人たちが集い学んだ場である旧二葉中だったことを忘れてはいけない。地域の方たちが迎え入れる施設になると自分たちのものになっていく。
- 今までは階段を登ってきたが、ここで階段を降りて考えることも必要だろう。
- 芸術というのは表現の面白さと同時に多面的なことを有していて後戻りすることも進化であったりする。
- そのような広い柔軟なイメージを持って対処して頂ければ、より良い空間になっていくと感じる。(丹治委員)
- 利用者が参画していく、一緒になって作っていく施設になると良いと思う。(中村委員)



### 3. 閉会

： 中野 力（文化スポーツ部文化政策課 課長）

- ・中村委員長を初め、委員の皆さま、8月の第1回から今日まで6回にわたり、真剣に検討頂き、ありがたく思う。4月からは、今日の意見を踏まえて基本設計、実施設計を進めていきたい。

この施設は国際青少年センターと芸術創造ファクトリーの2つの施設が融合して相乗効果を生むというのが一番の特徴であるので、この点に気を配りながら今後、設計を進めていく。

またどういったディレクターを置くのかということも大きな課題とっていて今後、検討を進めていく中で、皆さまにも、ご意見をお伺いする機会が出てくると思うので、引き続き、ご協力をお願いしたい。

以上

# F03 開催要綱

「旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会」開催要綱

(目的)

第1条 大規模跡地利活用の一つである旧二葉中学校舎を改修し、現大畑少年センターに国際機能を付加した(仮称)国際青少年センター及びアーティストやクリエイターの創造活動の拠点となる(仮称)芸術創造ファクトリーの基本構想・基本計画を策定するにあたり、有識者、関係団体から広く意見を聴取し、多方面から検討することを目的として、「旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会」(以下「検討委員会」という。)を開催する。

(開催期間)

第2条 検討委員会の開催期間は、(仮称)国際青少年センター・(仮称)芸術創造ファクトリーの基本構想・基本計画の策定日までとする。

(委員構成)

第3条 検討委員会は、10名以内をもって構成し、委員は次に掲げる者のうちから選任する。

- (1) 学識経験者
- (2) 国際交流関係団体
- (3) 青少年活動関係団体
- (4) 芸術活動関係団体
- (5) その他市長が認める者

2 委員の任期は平成28年3月31日までとする。

(守秘義務)

第4条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

(委員長)

第5条 検討委員会には委員長1人を置き、委員長は委員の互選によってこれを定める。

- 2 委員長は、検討委員会の進行を行う。
- 3 検討委員会に委員長代理1名を置き、委員長があらかじめ指名する委員でもってこれに充てる
- 4 委員長代理は、委員長が欠席の場合にその職務を代理する。

(会議)

第6条 検討委員会は、必要の都度、市長が招集する。

- 2 市長が必要と認めるときは、検討委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。
- 3 検討委員会は公開とする。

(庶務)

第7条 検討委員会の庶務は、地域教育推進課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成27年7月1日より施行する。



# P01 パブリックコメント 結果

## (仮称) 国際青少年センター・(仮称) 芸術創造ファクトリー基本構想案に対する パブリックコメントの実施結果について

地域教育推進課

「(仮称) 国際青少年センター・(仮称) 芸術創造ファクトリー基本構想」の策定にあたり、構想案について市民の意見を参考とするためパブリックコメントを実施しました。その結果は下記のとおりで、施設の役割(2)の文言を追加修正しました。

### 【パブリックコメントを実施した基本構想案の主な内容】

#### 基本理念

市民と行政が一体となり、青少年健全育成と文化芸術活動にかかる様々なプログラムの展開と支援・交流のための施設を整備することにより、感性を磨き心豊かな子どもの育成及び次代を担うアーティスト・クリエイターの育成を図ります。

#### 施設の役割

- (1) 家庭や学校とは異なる場所で、様々な活動を体験することにより、次代を担う「心豊かな子どもを育てる」ことを目的とした施設とします。
- (2) 国内外を問わず、アーティストやクリエイターの創作活動の支援及び青少年等との交流、本市独自の文化芸術の魅力発信を担います。
- (3) 市民交流及び市民力・地域力による青少年健全育成と文化芸術の創出を図ります。

### 【パブリックコメント 提出意見の概要】

◆実施期間 平成27年12月28日(月) ～ 平成28年1月27日(水)

#### ◆提出状況

提出者数(団体) : 2団体(提出方法: 郵送1団体、FAX 1団体)  
提出件数 : 14件

#### ◆結果公表場所

1. 市役所 ①市政情報室(本館1階) ②地域教育推進課(白山浦庁舎2階)
2. 各区役所地域課(設置場所は各区地域課にお問い合わせください。)
3. 各出張所
4. 中央図書館

【主な意見の概要】

<p>芸術関係 14件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若い作家が利用しやすい環境づくり</li> <li>●創作環境設備、ギャラリー等の展示環境の整備</li> <li>●新潟市美術館との連携</li> <li>●芸術等の知識がある人材の配置</li> <li>●10年経っても活用されるようなコンセプトの確立 など</li> </ul>
<p>施設全体 4件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難所の指定</li> <li>●投票所の指定</li> <li>●地域の集会所としての利用</li> <li>●周辺道路の安全対策</li> </ul>

【修正 1件】

項目	意見の概要	施設の役割
<p>施設の役割 (2)</p>	<p>新潟市美術館と至近距離にあり、連動した企画展を少なくとも年1回以上開催すべき</p>	<p>国内外を問わず、アーティストやクリエイターの創作活動の支援及び青少年等との交流、<b>市内文化施設等との連携を図り</b>本市独自の文化芸術の魅力発信を担います。</p>

# P02 パブリックコメント 意見・回答

## (仮称) 国際青少年センター・(仮称) 芸術創造ファクトリー基本構想(案) に対する パブリックコメント意見概要及び市の考え方

No	P.	意見	意見への市の考え方	修正	修正箇所等
<b>【全 体】</b>					
1	P10	新しい施設を避難所として指定して欲しい。なお、緊急時の出入口をもう一か所造って欲しい。	避難所指定については、施設の最終的な使われ方などをみて市担当部署で検討し指定をしていきます。 また、緊急時の出入口につきましては、近隣住宅を含めた周辺の地形等の状況や施設の安全管理を考慮しながら、整備する中で今後検討していきます。	なし	
2	P10	新しい施設を投票所として欲しい。	いただいたご意見は、この施設の理念や役割と直接関係がないため、基本構想(案)への追記、修正は無しとします。 ご意見は、関係課と共有させていただきます。	なし	
3	P10	集会所として、申込みすれば利用出来る場所を提供して欲しい。	1階部分の「食堂・カフェ」 2階部分の「コミュニティスペース」については、地域及び市民の皆様が自由に利用できる場として考えております。なお、2階部分の「和室」「ワークショップスペース」等は申込みによる利用できる部屋として検討しています。	なし	
4		周辺道路の安全対策をしっかりと取って欲しい。	いただいたご意見は、この施設の理念や役割と直接関係がないため、基本構想(案)への追記、修正は無しとします。 ご意見は、関係課と共有させていただきます。	なし	

No	P.	意見	意見への市の考え方	修正	修正箇所等
【(仮称) 芸術創造ファクトリー】					
5	P7	<p>国内外はもとより、県内をはじめ新潟市在住や出身など、特に若い作家が利用しやすい環境づくりの推進</p> <p>①安い利用料金（公民館並の使用料） ②宿泊施設の完備（レジデンシャル方式） ③駐車場の整備（無料） ④市報・ホームページで活動状況のPR</p>	<p>①利用料金は他の公共施設等を参考に設定します。 ②創作活動の場となる「工房・ギャラリー」は、簡易なレジデンシャルも想定しており、仮眠可能な休憩室に加えシャワー室を整備する予定です。 ③施設利用者の駐車場を整備します。駐車料金の有無は今後検討します。 ④施設情報については、様々な広報媒体を活用し、幅広く周知に努めます。</p>	なし	
6	P7	<p>10年経っても活用されるコンセプトの確立 (似たような施設は各地にあるが、大半は先細りしている。時代の変化に対応した柔軟な運営が必要であるそのため、3年ごとに利用状況の見直し、施設・料金体系などの再検討が必要と思う。)</p>	<p>社会動向や利用者ニーズを鑑み、柔軟な運営を図ります。また、指定管理制度を導入した際はモニタリングを行い、適正かつ効果的な運営に努めます。</p>	なし	
7	P11	<p>ギャラリーを設置して、市民が定期的に来館されるようにする。(展示作家との交流促進・ワークショップの開催・歳時記にあったイベントの開催(版画による年賀状の教室・夏休みの絵画教室など))</p>	<p>基本構想にギャラリースペースを設けています。施設の工房で創作された作品の展示をはじめ、運用について検討します。</p>	なし	
8	P11	<p>体育館スペースも展示会場として利用できる機能を整備する。(移動可能なパネルの用意)</p>	<p>必要に応じ体育館も展示スペースになりうると考えます。なお、備品等については、リース等を含め検討します。</p>	なし	



No	P.	意見	意見への市の考え方	修正	修正箇所等
【（仮称）芸術創造ファクトリー】					
9	P11	新潟市内公民館の合同展が開催されなくて数年になるが、体育館スペースで開催し、市民参加のイベントとして定着したい。	上記のとおり体育館も展示スペースになりうると考えていますが、運用についてはご意見等をいただきながら対応します。	なし	
10	P9	新潟市美術館と至近距離にあり、連動した企画展を少なくとも年1回以上は開催すべき。	新潟市美術館を含め、市内の文化施設等との連携を図り運営します。	あり	P9の 4 施設の役割 において、市内文化施設等との連携を加えます。
11	P11	打合せルームや美術講座用会場などフレキシブルな空間の設置。	ワークショップスペースや和室等で可能と考えます。	なし	
12	P10 -11	銅版画・石版画のためのプレス機の設置やコンピューターアートに対応した機器アニメ・コミック系作品の制作環境設備など若手作家の利用しやすい施設にするべき。	機材・設備等の施設所有については、利用頻度等を考慮し、レンタルやリースを含め検討するとともに、利用者持ち込みも合わせた対応を考えています。	なし	
13	P12	最重要な問題は、人材である。管理する・できる人は美術・工作の知識のある人材配置をお願いします。（せっかくの什器や設備の取扱いが雑で劣化する場合があります）	ご意見を踏まえ適切な管理・運営手法を検討します。	なし	
14	-	オープニング催事として「にいがたアートサーカス」の展覧会の開催参加を希望する。	ご提案と受け止め、参考にさせていただくとともに、必要に応じ関係者との情報・意見交換を行います。	なし	



# 00 先進事例 目次



## 先進事例

C01	先進事例	P. C01
C02	もりや学びの里	P. C02-03
C03	アーツ千代田3331	P. C04-05
C04	国際青少年センター	P. C06-07
C05	港南子ども中高生プラザ	P. C08-09
C06	神明子ども中高生プラザ	P. C10-11
C07	中高生センタージャンプ東池袋	P. C12-13
C08	世田谷ものづくり学校	P. C14-15
C09	三条ものづくり学校	P. C16-17
C10	隠岐の島ものづくり学校	P. C18-19
C11	浅草ものづくり工房	P. C20-21
C12	三省ハウス	P. C22-23



# C01 先進事例

下記、廃校の利活用に関する情報と調査により、主にアート創造の拠点、また体験学習や宿泊が行える施設の先進事例を次頁より紹介する。

廃校利活用 リンク集

## 文部科学省

- ～未来につなごう～「みんなの廃校」プロジェクト  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyosei/1296809.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1296809.htm)
- 活用用途募集廃校施設等一覧（平成28年2月1日現在）（PDF:421KB）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyosei/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/02/25/1296809\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/__icsFiles/afieldfile/2016/02/25/1296809_1.pdf)
- 私たちのまちでよみがえる廃校施設  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyosei/03062401/index.html](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/03062401/index.html)
- 廃校リニューアル50選  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyosei/03062401/index.html](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/03062401/index.html)
- 廃校施設の実態及び有効活用状況等 調査研究報告書  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyosei/03062401/index.html](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/03062401/index.html)

## 東京都文京区

- 旧小学校等保全・利活用・運営調査のまとめ  
<http://www.city.bunkyo.lg.jp/var/rev0/0093/2259/03shiryo6chousa.pdf>

# C02 もりや学びの里



平成7年に大井沢小学校の別敷地移転により整備。

本施設は廃校活用にあたり、検討委員会によって住民ニーズを十分把握した上で施設内容を計画したため、住民のニーズに合致した施設となっている。

アーカスプロジェクトと称する。（ARCUS：ラテン語で「門」）世界各国からアーティストを招き、本施設で創作活動を行う、アートを中心とした事業を推進している。

日本における「アーティスト・イン・レジデンス」事業の草分け。

## ● 公設公営：

- ・建物整備：守谷市
- ・管理運営：守谷市


## ● 所在地：茨城県守谷市板戸井2418

## ● 施設概要：

- ・体育室（体育館）
- ・和室1・2・3           ：宿泊、研修、会議等
- ・調理室
- ・創作工芸室   ：陶芸窯あり
- ・音楽活動室
- ・教室（レジデンス）：アーティストが滞在期間1人1教室を利用
- ・運動広場
- ・子育て広場   ：保育士常駐（火から金曜日、無料）
- ・野外キャンプ施設（バーベキューかまど等）：回廊あり、雨天利用可
- ・駐車場               ：車が移動手段の中心のため、広い

## ● 利用資格：

- ・市内在住、在勤に限る   2ヶ月前から受付



● **アーカスプロジェクト：**

国内外の現代芸術分野の若手アーティストを招聘し、滞在期間中に制作活動を行なう「アーティスト・イン・レジデンス」と、地域の人々が芸術に親しみ、体験する機会を提供する「アーカスと地域をつなぐプログラム」で構成されている。

アーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、毎年若手芸術家が5名程度選出され、最大5ヶ月の滞在期間としている。2002年度までは海外協力機関や推薦委員の推薦アーティストの中から選考委員会で決定。2003年度以降は公募による申請者の中から選考委員会で決定されている。

茨城県企画部地域計画課内 アーカスプロジェクト実行委員会事務局

チーフコーディネーター 朝重龍太（ともしげ・りょうた）

アーカススタジオ：<http://www.arcus-project.com/jp/>

主なスポンサー：フランス大使館、ANA、東京電力、アサヒビール、他

● **備考：**

- ・一般開館時間：9：00 ～ 21：00（バーベキューは20：30まで）
- ・休館日：月曜日、年末年始
- ・主な使用料：体育館 150円/1時間
  - 和室、創作工芸室、音楽活動室 100円 / 1時間
  - バーベキュー施設、講座研修室 50円 / 1時間
  - 陶芸窯 1740円 / 1回
  - 高校生以上の宿泊 100円 / 1泊（シャワー無料）
  - 小・中学生の宿泊 50円 / 1泊（シャワー無料）
  - ※ 35畳の和室（エアコン完備）布団、洗面用具持参
- ・年間利用者数：36,000人 / 年
- ・改修工事費：1億7000万円
- ・施設管理業務：1200万円 / 年（定期清掃、警備、点検、植栽管理）
  - ※日常的なものは、シルバー人材センターへ委託

# C03 アーツ千代田3331



平成17年に練成中学校の廃校により、平成19年より利活用に着手し、平成20年に運営団体を公募、平成22年6月にオープンした。平成27年から第2期に入り、引き続き、合同会社コマンドAが管理運営を行っている。

本施設は文化芸術活動の場所や発表の機会を提供するなど、新たな文化芸術の拠点を整備し区民等の自主的で独創的な文化芸術活動の支援、推進すること。また地域の団体や企業、アート活動団体等が連携し、ネットワークの広がりを創ることで、人材の育成を図り、その結果「人々の生活の質を高める」役割を果たすことを目的としている。

アーティスト・イン・レジデンスのプログラムとして滞在、製作、発表ができる、スタジオ兼ギャラリーとレジデンスが一体化した施設が、神田錦町に設けられている。

滞在型製作プログラム AIR3331：<http://residence.3331.jp/plan/>

## ● 民設民営：

- ・建物整備：千代田区（初期整備）
- ・管理運営：合同会社コマンドA

## ● 所在地：東京都千代田区外神田6丁目11-14

## ● 施設概要：

- ・体育館（平日夜間、土曜日は区民に解放）※ 運営団体が日常管理を行う
- ・区民会議室：2階の1教室 ※ 運営団体が日常管理を行う
- ・カフェ・レストラン・居酒屋：素材に拘り料理人が調理
- ・メインギャラリー、ショップ：期間ごとに展覧会を行う
- ・コミュニティスペース：フリースペース、イベント開催
- ・ラウンジ：アート情報を公開
- ・親子ステーション：アーティストが滞在期間1人1教室を利用
- ・喫煙室：給気ダクトにアート展示スペースあり
- ・屋上オーガニック菜園：1坪レンタル菜園（人気のため一般公募）

## ● 利用資格：

- ・千代田区とかかわるすべての人々（在住、在勤、在学、観光客、他）



● 合同会社コマンドA :

統括ディレクター 中村政人 (なかむら・まさと)

合同会社コマンドA : <http://www.commanda.info>

アーツ千代田3331 : <http://www.3331.jp>

● 備考 :

- ・ 施設開館時間 : 10:00 ~ 21:00 年中無休 入館料: 無料  
※ 年末年始、夏期休館日あり
- ・ ギャラリー会場時間 : 12:00 ~ 19:00 火曜休 入館料: 展覧会毎
- ・ レストラン営業時間 : 11:30 ~ 17:00 月、土、日曜休
- ・ 居酒屋営業時間 : 17:30 ~ 22:30 月曜休
- ・ 主な使用料 : コミュティスペース 36,000円 / 平日18時-21時  
ラウンジ 25,000円 / 平日18時-21時  
体育館 123,500円 / 平日13時-17時 (18時-区民解放)  
教室 250,000円 / 1週間 360,000円 / 2週間  
会議室 2,000円 / 1時間
- ・ 年間利用者数 : 調査中
- ・ 初期改修工事費 : 3億2200万円
  - エレベーター設置・玄関周り 9000万円
  - インフラ整備 (給排水、空調) 3200万円
  - その他 2億円
- ・ 土地建物の賃貸借 貸付料 : 143万円 / 月 5年契約
- ・ 事業委託費 : 800万円 / 年
  - 障害者支援アート事業費 600万円
  - アーティスト・イン・レジデンス事業 200万円
- ・ 維持管理費 : 660万円 / 年 (日常清掃を除く、点検、検査、修繕、等)
- ・ 光熱費 : 運営団体が一括支払い、区施設分は按分して運営団体に支払う

# C04 国際青少年センター



1915(大正4)年、YMCA東山荘は「明日の世界を担う青少年及び指導者の育成」を願いとし、学生YMCA夏季学校(現在の夏期ゼミナール)の常設館として開設。

第二次世界大戦後の1963年、現在の「国際青少年センター」となる。

1980年以降は全国の都市YMCA・学生YMCA、学校、教会のほか、企業研修などにも用いられるようになる。1990年代には、豊かな自然環境を生かしたネイチャープログラムがスタート。

個室、大部屋、和室、洋室などの複数のタイプの宿泊室、多目的に使える講堂や会議室、体育館、富士山麓での自然体験プログラムなどもあり、目的にそった利用ができる。日帰りでのプログラム、会議室の利用も可能。

## ● 民設民営：

- ・建物整備：公益財団法人 日本YMCA同盟
- ・管理運営：公益財団法人 日本YMCA同盟

## ● 所在地：静岡県御殿場市東山1052

## ● 施設概要：

- ・宿泊室（個室、大部屋、和室、洋室など）
- ・浴室、シャワールーム
- ・会議室
- ・体育館
- ・食堂
- ・ラウンジ
- ・講堂

## ● 利用資格：

- ・誰でも（一般：3ヶ月前、団体：1年前から受付）



● YMCA東山荘ネイチャープログラム：

多彩なネイチャープログラムをご用意。ワクワクするような自然との出会いを通し、「自然と一緒に気持ちいい」「みんなと一緒に気持ちいい」と感じる、すなわち自然と人

- ・人と人との関係作りを育む。

自然の包容力を大切にし、幅広い年齢層の方々が一緒に楽しむことができる。

舞台は、雄大な自然＝富士山と、身近な自然＝東山荘やその周辺。

主催プログラムは、こどもを対象とした「こども自然キャンプ」、そして誰でもご参加いただける「主催キャンプ」の2つ。

● 備考：

〈利用時間〉

- ・ 宿泊室 : 入室時間 (チェックイン) 15:00～  
退出時間 (チェックアウト) ～10:00
- ・ 浴室・シャワー室 : 17:00～24:00
- ・ 会議室 : 7:00～22:30 使用開始14:00～  
使用終了～翌12:00 (夜間～21:00)
- ・ フロントサービス・売店 : 7:00～22:30

〈利用料金 (参考例) 〉

- ・ シングル : 7,236円
- ・ ツイン使用 : 6,156円
- ・ 和室(4人用)／1室 : 4,968円
- ・ 第1会議室(9×10m) : 25,920円
- ・ 第2会議室(5×9m) : 19,440円
- ・ 第3会議室(5×7m) : 14,040円

# C05 港南子ども中高生プラザ



近年、高層マンションの相次ぐ建設で人口増加が進んでいる港区「港南エリア」。このエリアは住宅地であると同時にビジネスの拠点でもあり、「子どもたちが安全に遊べる、居場所の確保」が課題だった。港区では、本館プラザと学童クラブ分室に分かれて運営されていたこれまでの「港区立港南子ども中高生プラザ」を、移転統合することで充実を図った。

港南中学校の隣に平成24年12月1日にオープン。

## ● 公設民営：

- ・ 建物整備：港区
- ・ 管理運営：指定管理者

## ● 所在地：東京都港区港南4丁目3番7号

## ● 施設概要：

- ・ 保健室
- ・ 乳幼児室
- ・ 図書ラウンジ
- ・ 会議室
- ・ プレイルーム
- ・ 休養室
- ・ 多目的創作室
- ・ 学童クラブ室　：6室
- ・ 音楽スタジオ、ダンススタジオ
- ・ 体育館
- ・ 屋上広場

## ● 利用資格：

- ・ 0歳から18歳未満の児童とその保護者



## ● 活動紹介：

日常の活動に加え、季節にあわせた活動、グループ活動などを通じて児童の健全な育成を行う。

### 〈子育てひろば事業〉

- ・おひさまっこ活動
- ・音楽あそび（リトミック）
- ・お母さんのためのバランスボール教室
- ・親子ヨガ・家族ヨガ
- ・乳幼児バスハイク
- ・子育てあんしんプロジェクト（港区主催事業）
- ・講話・講演会
- ・子育て相談

### 〈学童クラブ〉

### 〈一般来館〉

### 〈行事〉

- ・月間定例行事
- ・年間行事
- ・異年齢・世代間交流

### 〈グループ活動〉

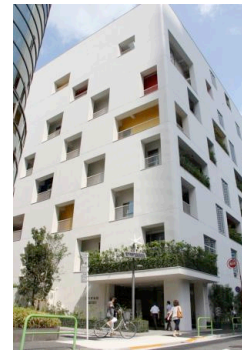
### 〈その他の活動〉

- ・利用者全てを対象とした大きなイベント

## ● 備考：

- ・一般会館時間           ：午前9時30分～午後8時（小学生以下は午後6時まで）
- ・休館日                    ：国民の祝日及び年末年始
- ・主な使用料               ：無料

# C06 神明子ども中高生プラザ



浜松町駅近くにある児童センター（5・6階）、平成24年9月1日にオープン。  
0歳から18歳未満の児童とその保護者を対象として、年齢に応じた様々なプログラムを実施。

また、ダンススタジオや音楽スタジオ、学習室などの活動スペースもあり、様々な活動が可能。建物は緑豊かで、屋上には菜園や水遊びも可能。

1階はカフェ・保育園、2階は展示スペース4階にいきいきプラザ（敬老・娯楽教養室、浴室）が併設されている。

## ● 民設民営：

- ・建物整備：港区
- ・管理運営：指定管理者（株式会社日本保育サービス）

## ● 所在地：港区浜松町一丁目6番7号 プラザ神明5F

## ● 施設概要：

- ・学童クラブ
- ・ラウンジ
- ・プレイルーム、キッズプレイルーム
- ・ダンススタジオ（2室）
- ・音楽スタジオ（2室）
- ・学習室
- ・図書室
- ・体育館
- ・多目的室

## ● 利用資格：

- ・0才から18才までの児童とその保護者



## ● 幼児、小学生、中学生が楽しめる施設

- ・ 幼児 : 手遊び、わらべ歌、ふれあい遊びや運動遊びなどの活動を通して、親子・子ども同士・保護者同士、の交流の場。
- ・ 小学生 : プラレールやボードゲーム、パズルなどみんなで楽しく遊べるスペース  
一輪車や卓球、鬼ごっこやマット遊び、大きなブロック遊びなど、さまざまな部屋がある。
- ・ 中学生 : 18:00～20:00は中高生専用の時間。体育館(～19:00)でもおもしろいスポーツをしたり、学習室で勉強したり用途は様々。音楽スタジオとダンススタジオは機材が揃っていて、2人以上で利用可能。

## ● 各種イベント (参考例)

- ・ 幼児 : ハッスルタイム、年齢別活動、カンガルークラス (生後3か月～1歳前後)、モンキークラス (1歳前後～就学前)、ママとベビーのヨガ (0歳児対象)、親子ヨガ (1歳以上)、お楽しみ会、なーるほど! 講座、バスハイク
- ・ 小学生 : スポーツレク、えんじょいサッカー、ダンス☆ダンス、習字、生け花太鼓、子ども会議、ローラー、ニューススポーツデー、いきいき×子ども読み聞かせの会、ガで汗をかこう
- ・ 中学生 : スタジオ首脳会議

## ● 備考 :

- ・ 開館時間 : 9:30～20:00  
小学生 : 9:30～18:00  
乳幼児・キッズランド : 10:00～18:00  
※就学前のお子さんは保護者同伴。
- ・ 休館日 : 国民の休日、年末年始 (12月31日～1月3日)
- ・ 入館料 : 無料

# C07

## 中高生センタージャンプ 東池袋



主な利用対象者を中高生等とした児童厚生施設(児童館)。

中高生が持っている可能性を自ら引き出し、生き活きと活動できる場。

区民ひろば朋有・東池袋豊寿園の3施設が入った複合施設の2階と屋上部分が、中高生センタージャンプ東池袋。

### ● 公設公営：

- ・建物整備：豊島区
- ・管理運営：豊島区（子ども家庭部子ども課）

### ● 所在地：東京都豊島区東池袋2-38-10-2階

### ● 施設概要：

- ・ホール
- ・プレイルーム
- ・図書コーナー
- ・多目的室
- ・スタジオ
- ・和室
- ・相談室

### ● 備考：

- ・利用資格：18歳未満（区内在住または区内の中学校・高等学校に在学）
- ・利用時間：月曜日から金曜日 午前10時から午後8時まで  
（中学生の利用は午後7時まで）  
土曜日 午前10時から午後6時まで
- ・休館日：日曜日・祝日・年末年始（12月29日から1月3日）
- ・利用料金：無料





● 運営目的：

日常的に中高生が仲間や個人で、自主的・自発的にジャンプを利用する中で、社会性を育み健やかな成長を支援しています。中高生の主体性を尊重し、中高生の意見を大切にしながら、地域における社会福祉の増進に寄与することを目的として運営。中高生が持っている可能性を自ら引き出し、生き活きと活動できる場を提供。日常的に中高生が仲間や個人で自主的・自発的にジャンプを利用する中で、社会性を育み、健やかな成長を手助けする。

● 備考：

〈主な定例活動〉

- ・ 利用者会議
- ・ 「池スタ」 (ジャンプ東池袋音楽スタジオの会)
- ・ 中高生企画
- ・ JAKY (ジャッキー) 「ジャンプであれもこれもやってみよう」
- ・ 中高生快護部 (子ども地域活動支援事業企画)
- ・ バンド支援 (楽器、ギター、ベース、ドラム)
- ・ 豊島区子どもの権利擁護委員毎月来館
- ・ 出張ふぉー・てぃー (東京都エイズ啓発拠点「ふぉー・てぃー」出張訪問)
- ・ JumpStudy (和室を勉強する中高生専用)に開放)

# C08 世田谷ものづくり学校



2004年3月に廃校になった旧池尻中学校校舎を2004年10月より世田谷区から民間事業者(アールプロジェクト(株))が借受け再生利用した施設。産業振興・地域交流・観光拠点化を目標に(株)ものづくり学校が運営。

## ● 民設民営：

- ・建物整備：アールプロジェクト(株) (開設当時は管理運営共)
- ・管理運営：株式会社ものづくり学校

## ● 所在地：東京都世田谷区池尻 2-4-5

## ● 施設概要：

【レンタルオフィス】全29室 賃料：部屋毎に設定(例 31.5㎡：114,900円/月)

他：保証金、共益費、光熱費

【共用施設】ミーティングルーム1,2、プレゼンテーションルーム

2-A教室、スタジオ、マルチブルスペース

プロトタイピングルーム、カフェ、エントランス

若者サポートステーション

メルクマールせたがや

## ●入居資格：あり

- ①世田谷ものづくり学校の事業方針に賛同し、実現に向け協力できる事業者であること。
- ②「ものづくり」を行っている法人もしくは個人事業主であること。
- ③ものづくり事業の統一ブランドに参画できるもの
- ④世田谷区の地域住民に対し貢献をする能力・職能を持ち技術を活かし地域貢献活動ができる事業者。
- ⑤退去後にも世田谷区内に事務所を設け、世田谷を拠点にした事業計画を有する事業者であること。



● Ikejiri Institute of Design 世田谷ものづくり学校：

[ デザイン・建築・映像・食・アート・ファッション ] などのさまざまな分野のデザイナー・クリエイターの「オフィス」として、またカフェやギャラリー・SHOPを備えた誰もが入れる「パブリックスペース」として機能。

レンタルスペースについては世田谷区民または世田谷区の団体は「世田谷区民価格」にて施設を利用可能。ただし、実施内容に関して審査あり。

入居事業者は、自らの活動やIIDでの成果を発表する場として活用することができ、ワークショップ、イベント、地域貢献活動など様々な機会に、また外部のクリエイターや関連企業などとも広く交流をすることができる。

※入居については、IID事務局での審査および世田谷区との協議の上決定とする。

● 備考：

〈主なレンタルスペース利用料金〉

・ 教室	：1時間	¥6,500	/ 1日	¥39,000	(一般利用)
	：1時間	¥3,250	/ 1日	¥19,500	(区民価格)
・ Studio	：1時間	¥10,800	/ 1日	¥65,000	(一般利用)
	：1時間	¥5,400	/ 1日	¥32,500	(区民価格)
・ Gallery	：1時間	¥7,200	/ 1日	¥44,000	(一般利用)
	：1時間	¥3,600	/ 1日	¥22,000	(区民価格)

〈レンタルスペース使用時間〉

- ・ 9:00-19:00

# C09

## 三条ものづくり学校



2014年3月に廃校になった南小学校を三条市が民間企業のノウハウを活かしてリノベーション。伝統ある優れた三条の地場技術に、デザインやアイデアを加え、三条のものづくり事業の発展に寄与する拠点となることを目指す。

誰もが慣れ親しんだ教室、地域の中心にある広大なスペース、学校ならではの自由で夢の広がる空間だからこそ、「ものづくり」を通して、大人も子供もワクワクできるコミュニティが生まれ『はたらく』『まなぶ』『あそぶ』が連動。

### ● 公設民営：

- ・建物整備：三条市
- ・管理運営：指定管理者（株式会社ものづくり学校）

### ● 所在地：新潟県三条市桜木町 12-38

### ● 施設概要：

- ・多目的ホール
- ・プレイルーム
- ・調理室
- ・和室
- ・Meeting room
- ・Café
- ・ギャラリー
- ・ライブラリー・プロトタイプングルーム

### ● 一般開館時間：8:30～22:00



## ● 基本構成要素：

- 1.各企業の事業内容、および技術をデータベース化、継続的に発表する場。
- 2.ものづくりに関わるデザイナー・クリエイターが入居するワーキングスペース。  
創業支援を目的としたワーキングスペース。
- 3.ギャラリー、カフェ、ライブラリー、3Dプリンタールーム、ミーティングルーム、昔ながらの教室、ネット放送局。
- 4.新たなデザインやアイデアによる、付加価値の高い新商品の開発をサポート。
- 5.伝統技術の刷新と進化するものづくり技術の可能性による、付加価値の高い新商品の開発サポート。
- 6.実践力のある企業・人材育成を目的としたセミナーや講演会の招致や主催。
- 7.地域の交流、次世代の三条市を担う子供・学生たちへのものづくりワークショップ  
IIDとのオンライン授業・ワークショップの開催・交流。
- 8.ものづくりに関わるイベントの開催。  
各企業の商品展示会。工場の祭典において、IIDと各企業が連携したエキシビション

## ●貸室詳細 / 賃料（月額）

- ・一般事務室Aタイプ（約66?） / 58千円
- ・一般事務室Bタイプ（約33?） / 29千円
- ・ワーキングスペース（1席+1ロッカー） / 5.8千円

（ワーキングは保証金・光熱費とも不要）

## ●主なレンタルスペース / 利用料金 / 広さ

- ・調理室 / 400 円/ h / 50.4m<sup>2</sup>
- ・和室 / 300 円/ h / 20畳
- ・Meeting room / 200 円/ h / 66.4m<sup>2</sup>

# C10 隠岐の島ものづくり学校



中村小学校が改修され2012年4月より開校。伝統や資源を活用したものづくりに関連する創業支援ブースとして機能させるほか、施設内には都心とつなぐ映像配信ネットワークシステムや、ギャラリー、ワークショップスペース等も併設。働きながら学べる環境が完備され島での起業を支援する創業支援プログラムも組み込まれる。島の伝統や資源を活用しながらビジネスやコミュニティを生み出す「場」としてプログラムを展開していく。また期間利用としての機能を持たせ、期間限定の企業誘致を促進させる。

## ● 公設民営：

- ・建物整備：隠岐の島町
- ・管理運営：指定管理者（株式会社ものづくり学校）

## ● 所在地：島根県隠岐郡隠岐の島町中村1494

## ● 施設概要：

【レンタルオフィス】全15室 賃料：部屋毎に設定(例 34.58㎡：32,550円/月)

【共用施設】 教室×7部屋、体育館、中庭、チャレンジカフェ  
ギャラリー、ライブラリー、ネット放送局

## ● 入居資格：あり

### ①次のいずれかに関する「ものづくり」を行っている方

- ・工業製品デザイン・映像・音楽・建築・食・家具、インテリア・アート
- ・上記各種デザインビジネスの事業化を円滑に行うためのビジネスシステムをデザインする方・その他、本事業にふさわしいと判断される方

### ②次の条件に該当される方

- ・隠岐の島町の地域住民に対して、有益な貢献をする能力・職能を持ち、技術を活かした地域貢献活動ができる方



● 学校紹介：

- ・ 開館時間 / 共用部 8:30 - 17:00
- ・ 事務局営業 8:30 - 17:00
- ・ 専有利用 24 時間
- ・ 敷地面積 3,958.00 m<sup>2</sup> (1,197.30 坪)
- ・ 建築面積 1F 956.28 m<sup>2</sup> (289.27 坪)  
2F 808.45m<sup>2</sup> (244.55坪)／体育館 564.61m<sup>2</sup> (170.8坪)
- ・ 延べ床面積 2,373.89 m<sup>2</sup> (718.10 坪)
- ・ 建物構造等 木造2階
- ・ 築年数 築51年 昭和33年建設

● 主な施設利用料金

- ・ 教室 : 1時間 ¥1,080/半日 ¥2,700/1日 ¥5,400  
1週間 ¥21,600/1ヶ月 ¥64,800/3ヶ月 ¥162,000
- ・ 体育館: 1時間 ¥3,240/半日 ¥9,720/1日 ¥19,440

● 備考：

- ・ 入居者利用時間：24時間
- ・ 一般会館時間／8:30-17:00 休館日／土日祝日
- ・ 入居期間：入居日から1年毎に審査面談により更新
- ・ 姉妹校として「世田谷ものづくり学校」や、「三条ものづくり学校」がある

# C11 浅草ものづくり工房



台東区の地場産業である靴、鞆、バッグ、ベルト、帽子、ジュエリー、アクセサリーなど、ものづくり分野で事業を興し、成長させていこうという個人や創業間もない法人を支援するための施設として、平成21年12月、台東区橋場(はしば)の産業研修センター旧館を改修し開設。

## ● 公設公営：

- ・建物整備：台東区
- ・管理運営：台東区役所 文化産業観光部 産業振興課

## ● 所在地：東京都台東区橋場1-36-2 台東区立産業研修センター

## ● 施設概要：

【レンタルオフィス】 全9室(31.5㎡8室、39.2㎡ 1室) 賃料：部屋毎に設定  
(例 31.5㎡：10,000円/月)

他：保証金、共益費、光熱費

【共用施設】 交流サロン、マシン室・機械研修室、図書コーナー

## ● 入居資格：あり

- ①靴、鞆、バッグ、ベルト、帽子、ジュエリー、アクセサリーなど台東区の地場産業である、ものづくり分野を支え、業界の活性化に貢献していただける職人・クリエイター等であり、台東区内で創業を予定している個人、または創業5年以内の法人。
- ②ビジネスを拡大する意欲が高く、また創業のための支援が必要と認められること。
- ③台東区内の地場産業や地域の活性化に寄与する活動を行う意欲があること。
- ④施設の利用期間終了後、台東区内において引き続き事業を行おうとする意志を有すること。





## ● 主な支援内容：

- ①経営やビジネスに関する相談
- ②商品開発のための調査、技術的な相談
- ③販売促進などの相談。アシスタント
- ④情報の発信と提供
- ⑤業界との交流、ネットワークづくり
- ⑥地域との荒涼

などをスタッフが中心になり、各分野の専門家と共に入居者を支援。

## ●各種講座

- ・ファッション・マーケティング講座
- ・ファッションデザイン画 講座
- ・CAD入門講座 / CADステップアップ講座 / CAD応用講座
- ・工作機械等個別技術講習

## ●各種教室

- ・英会話教室（基礎・日常） / 中国語教室（初級）
- ・革工芸教室 / 革製品のリメイクと染色教室
- ・トレーニング教室 / 太極拳教室
- ・革小物手作り教室

## ●建物概要

- ・鉄骨3階建て
- ・延べ床面積932.78㎡

# C12 三省ハウス



1989年に閉校した松之山町小学校が、閉校後校舎の活用が地区住民達により模索され、2006年の大地の芸術祭をきっかけに宿泊施設として開設される。周辺には地域の人々によって運営されているアーティストが手がけた文化施設があり、楽しむことができる。

## ● 公設民営：

- ・建物整備：十日町市
- ・管理運営：(株)アートフロントギャラリー

新潟県知事の依頼により、代表である北川フラムが大地の芸術祭の総合ディレクターとし、大地の芸術祭の企画・運営を受託。



NPO法人越後妻有里山協働機構

芸術祭に地元住民が参画できる組織作りを目指して、2008年に設立。「妻有ファンの拡大」「大地の芸術祭自立支援」「地域活性化の為の企画コーディネート」が事業の3つの柱。

## ● 所在地：新潟県十日町市松之山小谷327

## ● 施設概要：

- ・宿泊交流棟：木造2階建て 955平方メートル
- ・体育館：鉄骨造 652平方メートル
- ・客室：部屋数：5、各室16床
- ・食堂：2教室の仕切りを取り払い、宿泊者が一堂に集える。



● 主な体験プログラム：

- ・ 越後妻有の林間学校 夏
- ・ 越後妻有の林間学校 秋
- ・ 越後妻有の林間学校 冬（雪あそび/餅つき/鳥追い行事/小谷集落のどんど焼き）
- ・ 冬の体験プログラム（三省ハウスで冬を楽しむ／あんぼづくり体験）
- ・ 冬の暮らし体験ツアー

● 備考

- ・ 料金(1泊2食プラン:5/1-12/28)：大人 6,000円 こども 4,200円 (一泊二食付き)
- ・ 部屋数 ： 5部屋 (各室16床、計80床のベッドを用意)、男女の部屋割りで案内
- ・ 食堂 ： 集落のお母さん達がつくる越後松之山の家庭料理
- ・ 入浴施設：シャワー室あり。車で10分程度の場所に日本三大薬湯「松之山温泉」利用可。
- ・ 体育館、図書館、グラウンド：セミナーや講義、多目的に利用可。  
プロジェクター、スクリーン、ホワイトボードの貸出他、卓球台、バドミントンセット、ボールスノーシューを用意
- ・ 実施体験プログラム：林間学校、雪遊び、餅つき、鳥追い行事、どんど焼き  
あんぼづくり体験、冬の暮らし体験ツアー、学校の合宿
- ・ 三省カフェ：2014年オープン(図書室利用)。  
旬の食材を使った手作りピザ、スイーツ、飲み物等連れの子供は体育館を利用可

策定支援：  
株式会社 本間総合建築

〒110-0014  
東京都台東区北上野2-31-3  
03-3844-3181  
info@hom-inc.com



